

(735) 鼓皮殘闕
二十二口の内數口を陳列す、木地黒漆塗、細長形。
(南第一一六號)

鐵の縁輪一束を附す。

(736) 新羅琴殘闕
(南第一〇〇號)

(737) 桐木琴殘闕
(南第九九號)

(738) 木笏
吳樂物の一。墨書あり、『東大寺前二 天平勝寶』の九字仄に讀むべし。
(南第一二四號)

(739) 桑木阮咸
(南第一二五號)

捍撥は綠地に松下圍碁の圖を畫けり。袋を具す、表深綠絶、裏黃絶、墨書『東大寺 納雜樂阮咸袋』

(740) 武王大刀
(南第一一九號)

唐樂の大刀。刃長二尺二寸一分六十七糎、牟久木の把、漆鞘密陀繪を畫けり、鐵作り。刀身に『東大寺』『武王』『天平勝寶四年四月九日』の刻銘あり。

(741) 破陣樂大刀 二口
(南第一一九號)

亦唐樂の大刀なり。一口は刃長二尺二寸一分六十七糎、一口は刃長二尺一寸九分六十六糎三、いづれはも牟久木の把、鞘に密陀繪を畫けり、鐵作り。刀身に『東大寺』『破陣樂』『天平勝寶四年四月九日』の刻銘あり。袋二口を具す、表白絶裏緋絶、墨書一口に『東大寺 破陣樂大刀』 一口に『破陣樂大刀』。

(742) 婆理大刀
(南第一二三號)

婆理は度羅樂の曲名なり。胡粉塗の木刃、長一尺八寸一分(五十五厘)牟久木の把、鞘に密陀繪を畫けり、鐵作り。刻銘『東大寺』『波理』。袋を具す、表白絶、裏緋絶、墨書『東大寺波理大刀』。

(743) 樂

棗 二枚

(南第一一七號)

一枚は刃に枝あり、柄の上端に鑲を着く、柄半ば折れたり。
一枚は三叉木刃、漆塗、柄闕く。

(744) 朴木金銀繪琴箱

(南第一〇七號)

蓋甲及び身の一側を新に補へり。

(745) 鐵方磬殘闕

(南第一一三號)

方形の鐵板九枚を存す、上縁弓形をなし、これに近く方孔あり、十餘枚を一具と

し、架に懸け連ね、撥もて之を打つ樂器なり。

(746) 甘竹律

二口

(南第一一二號)

實は甘竹簫なり。

一口は七管と楸木の帶(簫の縁板を帶といふ)一枚とを存す。五管と帶一枚と紫皮とを新に補へり。

一口は九管と楸木帶一枚とを存す。

案ずるに、獻物帳に『甘竹簫一口、楸木帶』とあり、右二口のうち一口は之に該當するものなるべし。

(747) 子日目利筵 二枚

(南第七五號)

古代朝廷に於ける正月初子の日の御儀式に用ひられたるものなり、目利は著の借字なるべし、枝梢所々に雜玉を貫く、故に玉筵とも云ふ、紫皮の把、一枚は金絲もて其の上を纏く、一枚は白縷に雜玉を貫きたるをもて之を纏く、今殘破せり。

(圖版、六〇)

(748) 粉地彩繪倚几 二枚

(南第七六號)

前件玉筵に屬す。(圖版、六〇)

(749) 綠紗几覆及帶

(南第七八號)

各二條。前號倚几の覆及びその帶なり。各墨書あり。

(750) 子日手辛鋤 一口

(南第七九號)

玉筵と同じく、正月初子の日の御儀式に用ひられたるものなり。刃は漆金銀繪柄は粉地彩繪墨書『東大寺子日獻天平寶字二年正月』。一口の刃は新補。按ずるに、支那の周漢の制に、孟春の月に、天子親ら籍田を耕し、王后蠶室を掃ひ、蠶神を祭る儀あり、蓋此の儀に則らせたまひ、孝謙天皇天平寶字二年正月三日の子の日に用ひたまひたる子日鋤と玉筵となるべし。此の時大伴家持の詠じたる和歌萬葉集に見ゆ。

(751) 彩繪佛像幡

(南第一五五號)

生絹。寶庫に藏する幡の類多し、大小長短、錦あり、羅あり、刺繡あり、今皆別に之を藏置す、但其の彩色畫なるは獨り本號の一品あるのみ。

(752) 赤漆密陀繪雲兔櫃

赤漆地に花卉、兔、孔雀、雲形等を畫けり。

(南第一七〇號)

(753) 赤漆櫃

鐵の鑠子を着く。

(南第一七〇號)

(754) 榻足机七前

今各處に分置し、それぞれ他物の上に載せ置けり。

(南第一七三號)

(755) 檜墨繪花鳥櫃

兩脚、側板前後に各鐵環一箇を着く。側面に花鳥の墨繪あり、剝落せるもその痕認むべし。

(南第一七二號)

西棚

(756) 檜彩繪花鳥櫃

(南第一七一號)

鐵の鑠子、銘『公驗』、公驗は土地の所有權を公認したる國司の文書なり。

(757) 漆花形皿

(南第四〇號)

二十九枚のうち數枚を陳列す。五枚は表朱金覆輪、裏黒漆地に彩繪あり、四脚を具す。二十四枚は黒漆塗四脚。脚闕けたるを新補せり。

(758) 漆小櫃

(南第一六九號)

(759) 鑲

子

四十三具

(南第一六七號)

一九六

銀、金、銅、鐵の各種。補修多し。

(760) 漆密陀繪雲鳥草櫃

(南第一六八號)

(761) 漆密陀繪龍虎櫃

(南第一六八號)

黒漆塗蓋甲に雲龍、側面に蔓草怪獸怪鳥を畫けり。

(762) 工

匠具

二十一口

(南第八七乃至九二號)

鉋五、錯三、刀子二、鑽一、打鑽六、多賀禰四。

(763) 針

一雙三隻

(南第八四號)

一雙は銀針、一雙は鐵針。又銀針銅針鐵針各一隻、每隻に題箋あり、長、重、糸長を記す。鐵針一隻は(775)の赤縷に屬す。

(764) 綠麻紙針裏

(南第八五號)

墨書「綠淡搓糸一條、重二兩二分大、鐵針一隻」。

前記銀銅鐵等の針、皆實用に供せられたるものとは見え、江家次第に、乞巧奠の時、金針銀針を楸木の葉に挿み、或は色紙にさして、之を織女星に供へ、巧を祈ること見ゆ、此の針或は此等の儀に用ひられたるものにあらざるか、疑を存す。

(765) 金

銀箸

一雙

(南第八六號)

(766) 和

同開珍

十五枚

(南第九三號)

(767) 神

功開寶

(南第九四號)

(768) 藺 筵 十帖

細長形。

(南第一五一號)

一九八

(769) 刻彫蓮花佛座 二枚

(南第一一六號)

(770) 漆 佛 龕 扉

佛像三十五軀を貼せり。

(南第一五九號)

(771) 漆 佛 龕 扉 四扇

内面に遍く金銅佛像を貼せり。

(南第一五八號)

(772) 佛 像 型 三枚

銅製陽刻如來像。これを型と名づけたる當否は未だ斷ずべからず。

(南第一五三號)

(773) 漆 皮 箱 殘 闕 三隻

(南第一七五號)

(774) 開 眼 縷

縷色の糸にて組みたる紐なり。題箋に云はく『開眼縷一條 重一斤二兩大

(南第八二號)

天平勝寶四年四月九日』。

按ずるに、大佛開眼の時墨を眼に點す、その筆に索十二條を繋ぎ、之を數町の遠きに引き、參會の人をして、銘々に此の索を執らしめ、諸人相共に開眼する意を示すこと、東大寺續要錄及び東大寺供養記等に見ゆ。

(775) 縷 八條

(南第八二號)

白縷 二條大小

赤縷 一條

黃縷 一條

雜色縷 四條

南倉階下

一九九

(776) 綺かんはたの

緒を

幅約八耗平打の緒にして、經卷書卷等の帶に用ひたるものなり。

(南第八三號)

二〇〇

(777) 古裂類

此の位置と(793)とに古裂類若干點を納む、品目は時々交換することあるべし、詳細は現品題箋に就き之を觀るべし。

(南衣帶幙帳等ノ内)

(778) 蘭筵褥心

三束

(南第一五二號)

(779) 墨畫佛像

方一米餘の麻布に墨繪もて跏坐菩薩像を畫けり。(圖版六二)

(南第一五四號)

(780) 樂器殘闕

(南第一七七號)

七絃樂器殘闕

一枚

琵琶轉手

二枚附別種轉手二

新羅琴楸形其他

三片

琴龍角其他

五片

箏龍角龍舌其他

九點

南棚

(781) 雜玉花籠 二口

雜色の瑠璃小玉を細き針線に貫き、六稜星形に編みたり。

(南第一五七號)

(782) 金銅鈴 九口

(南第一六四號)

(783) 鈴 百三十五口の内若干を陳列す。細かき毛彫を施せるものあり。
(南第一六四號)

(784) 金銅杏葉裁文 十連
(南第一六四號)

(785) 金銅杏葉裁文
(南第一六四號)

每連八枚、鈴及び鐸を用ひて飾る、又瑠璃玉を嵌するあり。五連は磬の形の鎮を着く、五連は鎮を具せず。

八枚、曲玉を以て飾る、其の内硬玉、碧玉岩等あり、蓋古代のものを轉用せるなり。

(786) 金銅幡 四條
(南第一五六號)

每條四枚、頭は花形、一枚葛形、一枚龜甲形、一枚木葉形、一枚烏雲形の裁文、各毛彫あり、蝶番を以て連結し、鈴及び花形を以て莊る。(圖版、六二)

(787) 金銅枚幡鎮鐸 十口
(南第一六四號)

圓筒形、每口頂に數字を刻す、『一』、『二』、『三』、『四』、『五』、『六』、『七』、『八』、『九』、『十』、『十一』、『十二』、『十三』、『十四』。九口に刻銘あり、『東大寺枚幡鎮鐸 天平勝寶九歲五月二日』、『七』の

刻文ある一口は刻銘を闕き墨書同文あり。舌に花形の飾を着く。(圖版、六三)
別に白絹袋殘闕を藏す、亦墨書『東大寺枚幡鎮袋 天平勝寶九歲五月二日』
の文字あり。枚幡の義未だ詳ならず。

(788) 金 銅 鎮 鐸

圓筒形、前號に似て製作稍異なり、銘なし。

(南第一六四號)

(789) 金 銅 鎮 鐸 八口

弧菱筒形、舌に花形の飾あり。内一口舌飾の形を異にす。(圖版、六三)

(南第一六四號)

(790) 金 銅 鳳 形 裁 文

毛彫あり。

(南第一六三號)

(791) 金 銅 雲 花 形 裁 文

毛彫あり、刻銘に『東大寺 高笠萬呂作 天平勝寶四年四月九日』とあり。

(南第一六二號)

(792) 漆 金 銀 繪 佛 龕 扉

四扇

(南第一六〇號)

(793) 古 裂 類

此の位置には(777)と同じく古裂類若干點を納む、品目は時々交換することあるべし(圖版、六四)

(南衣帶幘帳等ノ内)

(794) 古 裂 塵 芥 十二瓶

古裂斷爛の細片粉末を納めたり。

(南第一七六號)

一四〇九	一四〇四	一四〇二	一三九一	一三八九	一三八四	一三七六	一三七〇	一三六七	紀元
孝謙	聖武					元正	元明	天皇	年號
天勝	天感	天平	天平	天平	神龜	靈龜	和銅	慶雲	年號
元寶	元寶	元	一六	一四	三	六	元	二	號
七月二日天皇即位、同日改元	四月十四日改元	十月三日樂毅論御日付	二月十四日最勝王經帙日付	九月八日雜集御日付	七月六日柄香爐箱銘日付、八月五日改元	二月四日、天皇即位	唐玄宗開元四年、墨背朱書	都を平城に遷す	七月二十六日詩序日付
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
西曆	西曆	西曆	西曆	西曆	西曆	西曆	西曆	西曆	西曆
七四九	七四四	七四二	七三一	七二九	七二四	七一六	七一〇	七〇七	西曆

參照年表

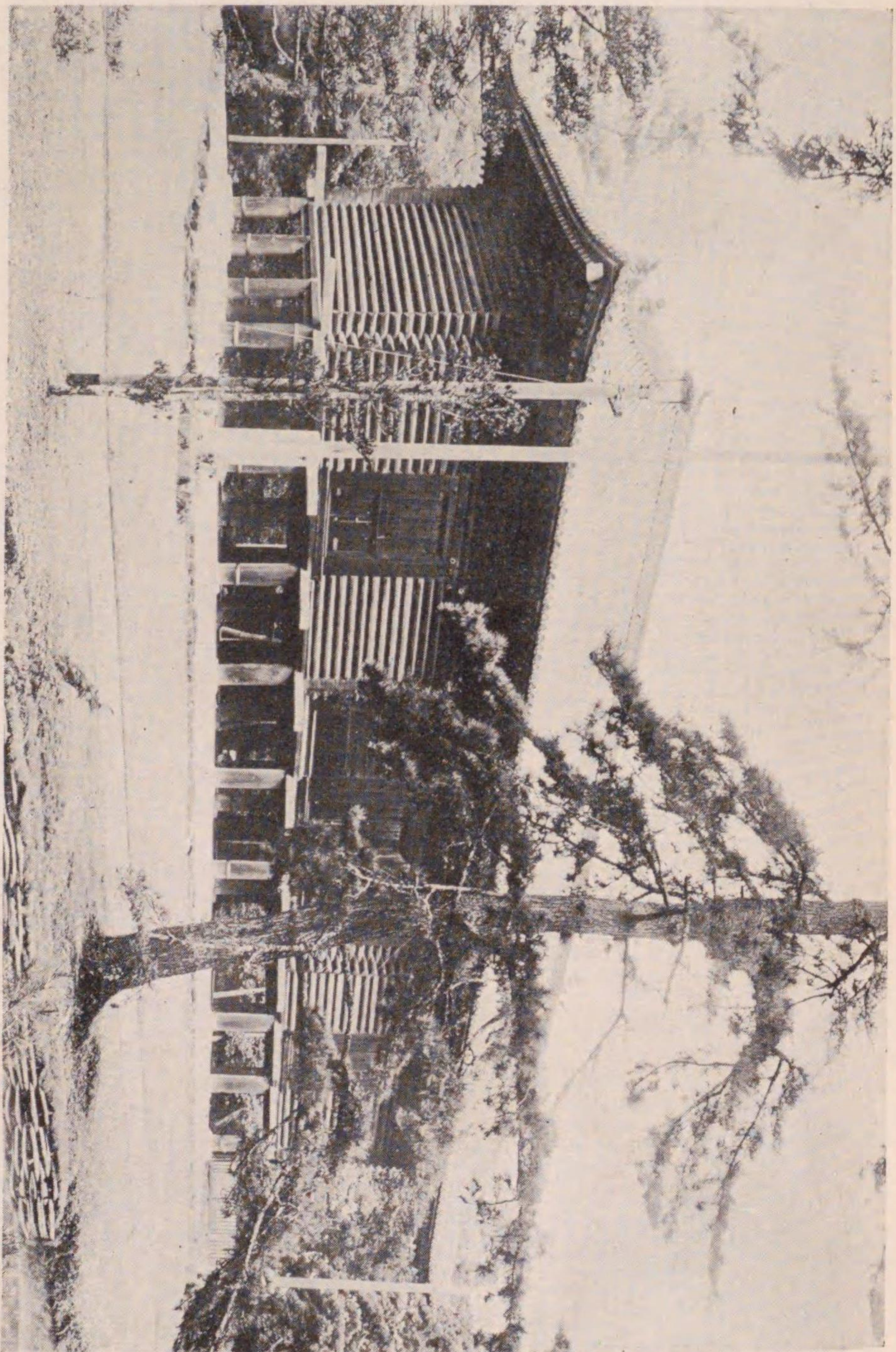
(100) 金剛經外經疏文
 (101) 金剛經外經疏文
 (102) 金剛經外經疏文
 (103) 金剛經外經疏文
 (104) 金剛經外經疏文
 (105) 金剛經外經疏文
 (106) 金剛經外經疏文
 (107) 金剛經外經疏文
 (108) 金剛經外經疏文
 (109) 金剛經外經疏文
 (110) 金剛經外經疏文

一四四七	桓武	延暦六	六月二十六日曝涼使解日付	七七八
一四五三	桓武	一二	六月十一日曝涼使解日付	七九三
一四五四	嵯峨	一三	都を平安に遷す	七九四
一四八一	嵯峨	弘仁二	九月二十五日勘物使解日付	八一
一四八三	嵯峨	一四	弘仁年間屢寶物の出藏、還納、換納あり	八二三
一四八六	淳和	天長三	九月一日雜物出入帳日付	八二六
一五一六	文德	齊衡三	六月二十五日雜財物實錄日付	八五六
一六一〇	村上	天曆四	六月霜索院雙倉の納物を正藏院に移す	九五〇
一八四〇	安徳	治承四	大佛殿炎上	一一八〇
一八四五	後鳥羽	文治元	八月二十八日大佛開眼	一一八五
一八九〇	後堀河	寛喜二	十月二十七日盜人寶庫に入り御鏡を竊む	一二三〇
一九〇二	後嵯峨	仁治三	三月禮服御冠破壊せらる	一二四二
一九一四	後深草	建長六	六月十七日雷寶庫に震す	一二五四

一四二二	孝謙	四	四月九日大佛開眼	七五二
一四一五	孝謙	七	七月十九日花籠日付、太上天皇御生母忌日	七五五
一四一六	孝謙	八	五月二日太上天皇(聖武)崩す 六月二十一日國家珍寶及種々藥を東大寺に獻す 七月二十六日屏風花氈等を東大寺に獻す	七五六
一四一七	天平	九	正月二十一日沙金請文日付 五月二日太上天皇周忌齋會 八月十八日改元	七五七
一四一八	天平	二	六月一日大小王眞蹟を東大寺に獻す 十月一日書屏風を東大寺に獻す	七五八
一四一九	淳仁	三	三月十九日桂心請文日付	七五九
一四二〇	淳仁	四	皇太后(光明)崩す	七六〇
一四二四	天平	八	五月惠美押勝亂を爲す、九月十二日御甲御大刀御弓出藏	七六四
一四二七	神護	三	二月四日東大寺行幸、銀壺日付 八月十六日改元	七六七
一四二八	神護	二	四月三日東大寺行幸、几褥日付	七六八
一四四一	天應	元	王羲之書法出藏、後還納	七八一

二一二五	後土御門	寛正 六	足利義政に黄熟香を賜ふ	一四六五
二二二七	正親町	永祿一〇	松永久秀大佛殿を焼く	一五六七
二二三四		天正 二	織田信長に黄熟香を賜ふ	一五七四
二三五三	東 山	元祿 六	寶物を修理す	一六九三
二四九三	仁 孝	天保 四	寶庫及び寶物を修理す、翌年に亘る	一八三三
二五三七	明 治	明治一〇	奈良行幸黄熟香を截らしめらる	一八七七
二五五二		二五	御物整理掛を置き寶物を修理す、後數年に亘る	一八九二
二五七三	大 正	大正 二	寶庫を修理す	一九一三

圖版 寶庫全景



辱名重如故貨鷓鴣書

年蘇建跡崖巖結駟並期州且同願賢
家酒得數杯脯並一且鷓鴣面色各貨
二頭情眷既深極事汗清尋常備送不
徹近時吁願思之板者短乏

各

如弟喬集羣英棧運勝友家豐九戲

准如鷓鴣仰与着為友輕亦敢忘怪忽於

此事輒有借之尋觀嘉許一何移暮

可恨既甚年雖身之淫付使之老休來

報如嬌少瘦希並桑頌

沈如嬌之粟麥書

芸鋤空術耕種方去夏夏棧雖空令秋

粟豐踏死眾諸誠軒廊事迭遷早晚

二亩二五可獲產生為說有婦一忘欲相顧

做客極渴渴既建寓區餽值友朋不飲

望身布分非合脫家所清銀寶再生

若救朝脯沒身非報

各

先苦窮積收救不計准糧味惟充朝夕

既承友純公得通融亦家分增未成仰

故准得粟麥五石且願領之略表不空

勿嫌少恐如更短之年憤報知若作

高量用取周湯

圖版四

(23) 杜家立成一部

延至思載燕主仰望風聲三城必從則王樂

隆矣雖淹留於兩邑乃致連之天下不幸

之變世所下當取於去歲時雖固然苦乃過

以成利之計則取之事求欲速以故

燕齊之士流血於二城之間後教傷之殘示

四國之人是縱暴易亂貪以成和鄰國皆

猶射帝既大墮稱兵之義而毀濟弱之仁

嚮齊之而穰廉善之風掩害通之度棄

王德之隆雖三城幾於可拔霸王之事遊其

遠矣然則燕雖兼齊其與世主何以終哉其

與鄰敵何以相傾樂生豈不知拔三城之速

了哉傾城拔而業垂豈不知不速之致變

頽業垂與變同由是言之樂不屠三城其

六未可量也

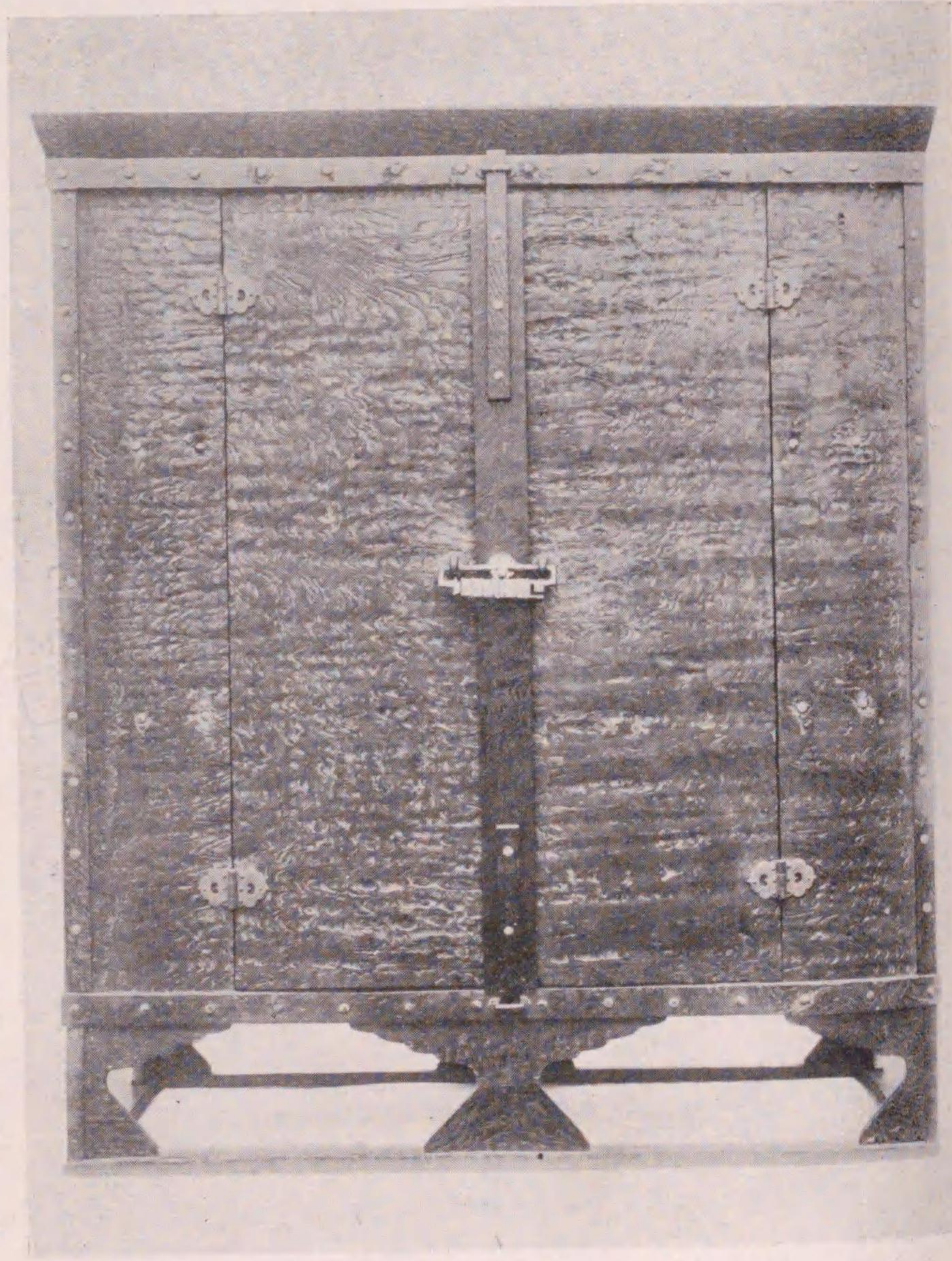
天平六年十月言

滕三娘

圖版五

(24) 樂毅論卷尾

圖版七



(46) 赤漆文欄木厨子

七

圖版六



(35) 紅牙撥鏤尺二枚表裏

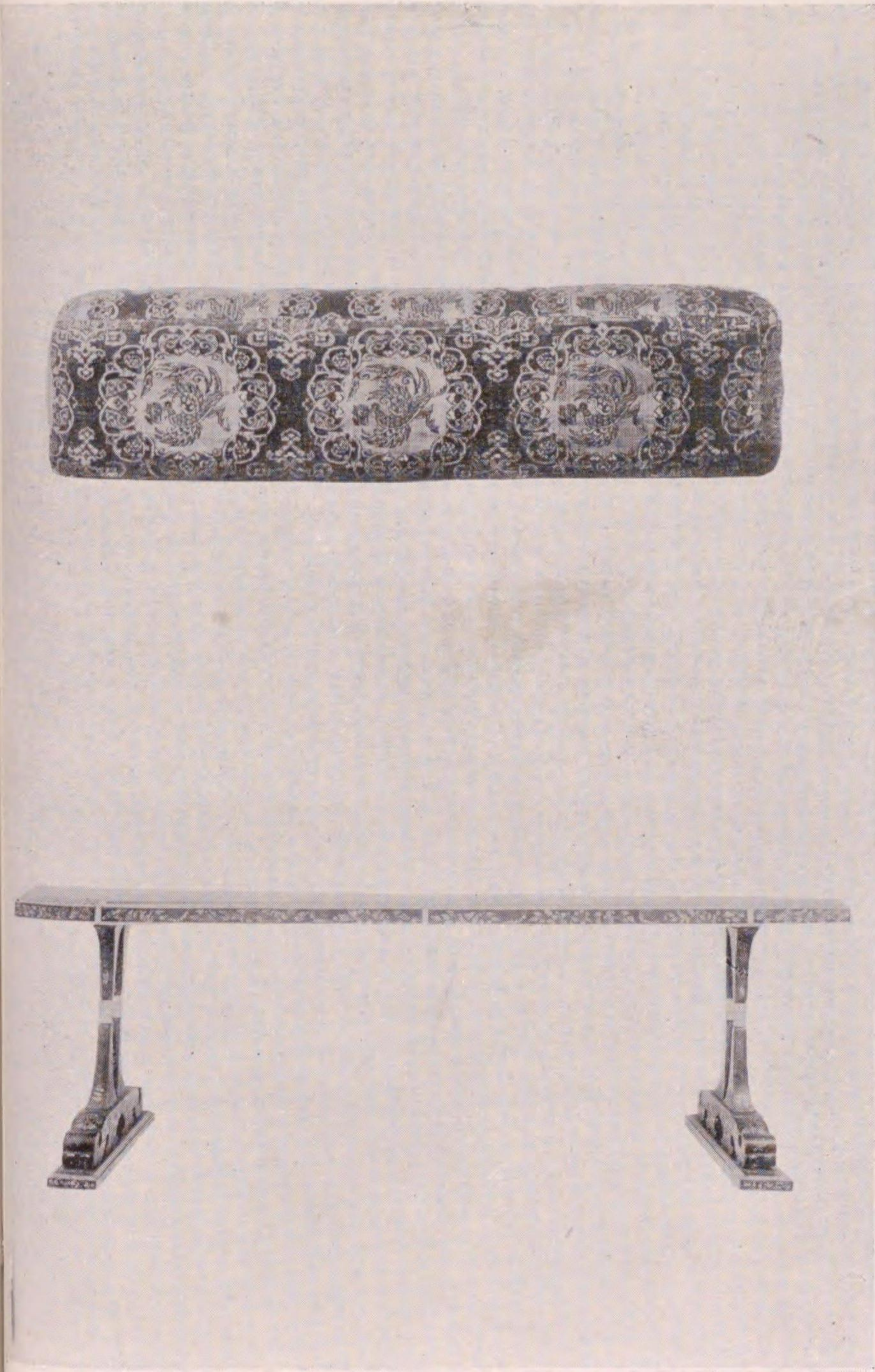
六

圖版九



(51)
銀
薰
爐
九

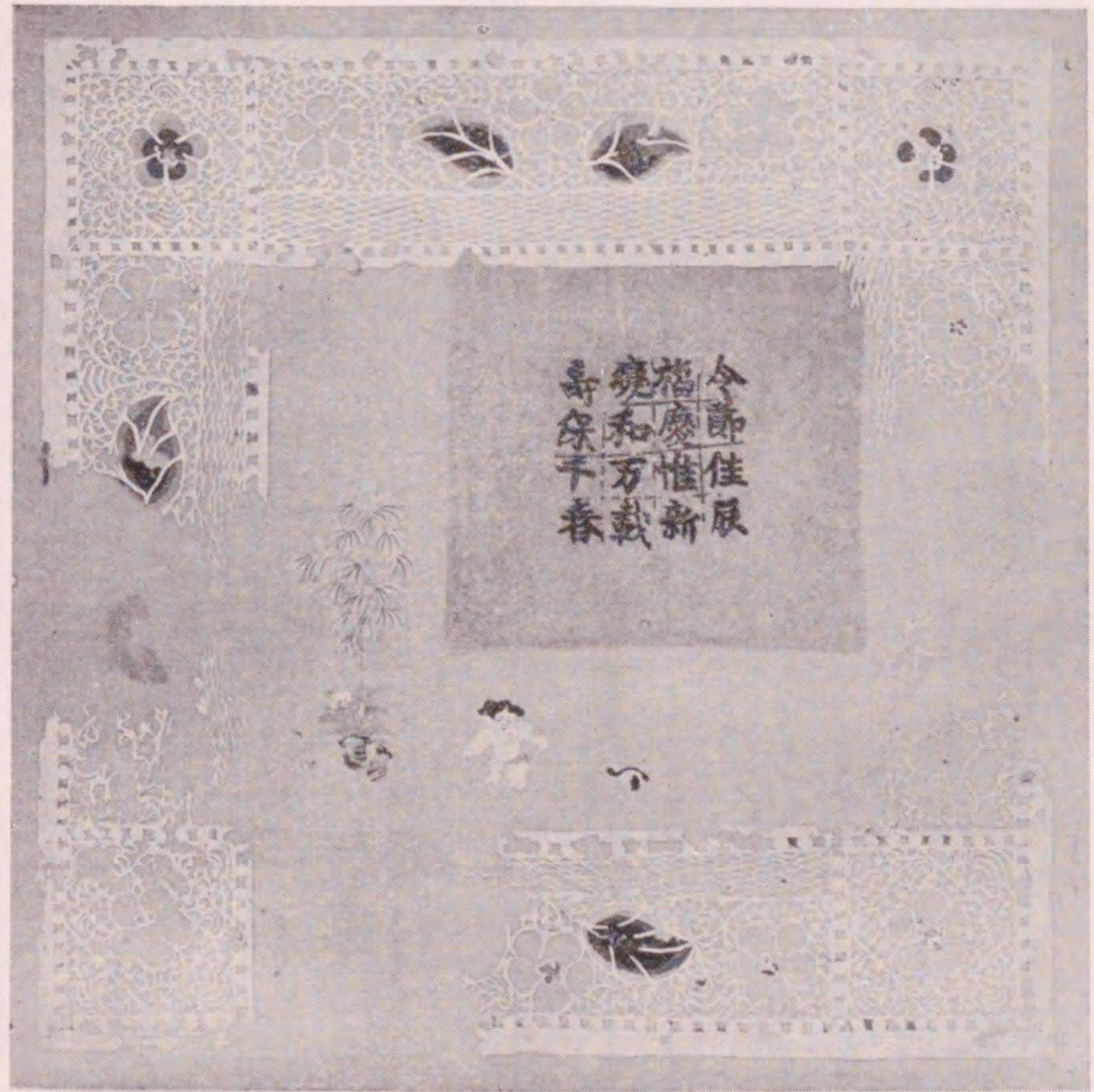
圖版八



(48)
鳳
形
錦
御
軾

(47)
紫
檀
木
畫
挾
軾

圖版一〇

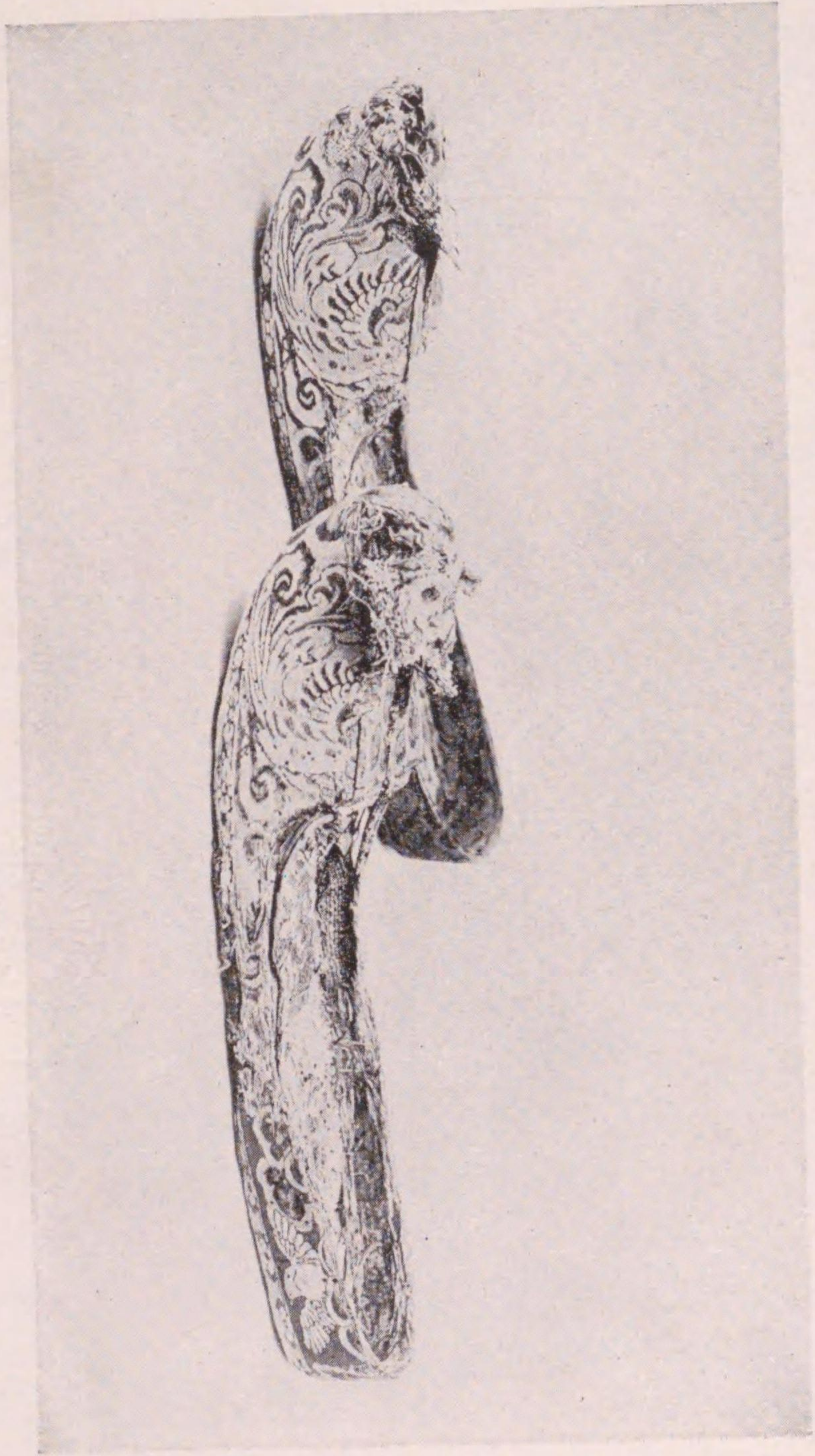


(52) 人勝殘闕雜張

一〇

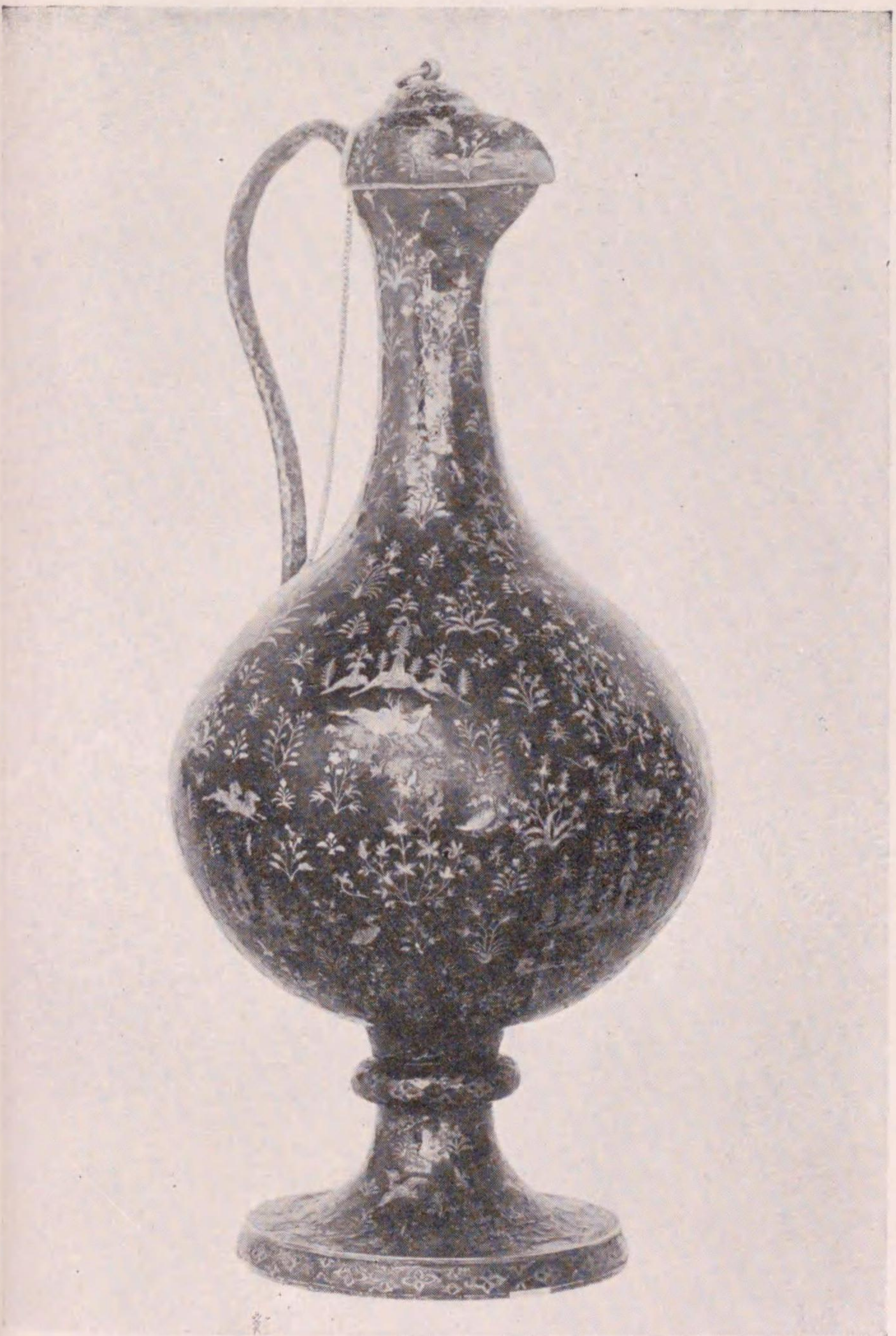
圖版一一

(53) 繡線鞋



一一

圖版二二



(54)

漆

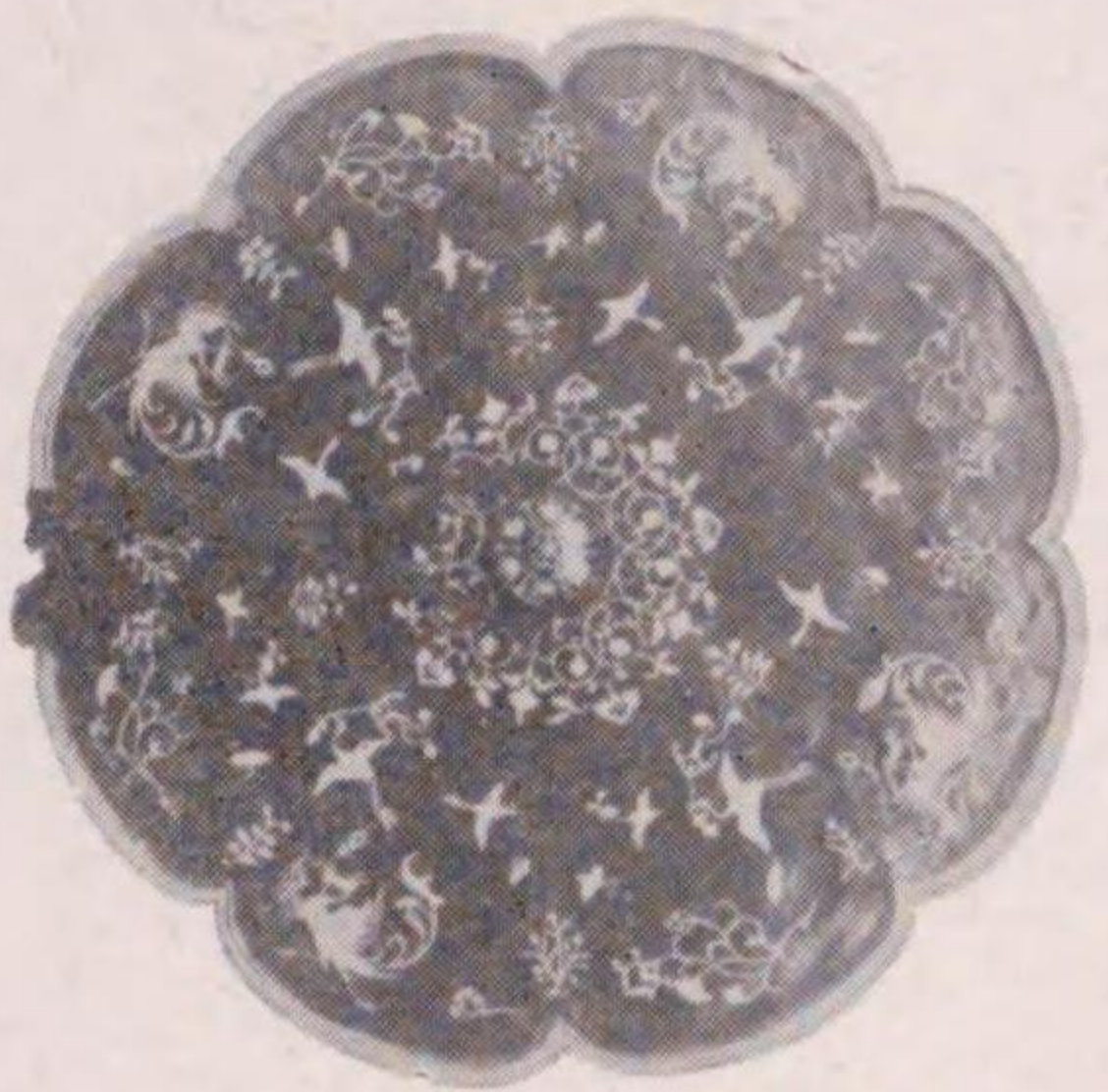
胡

瓶

二二

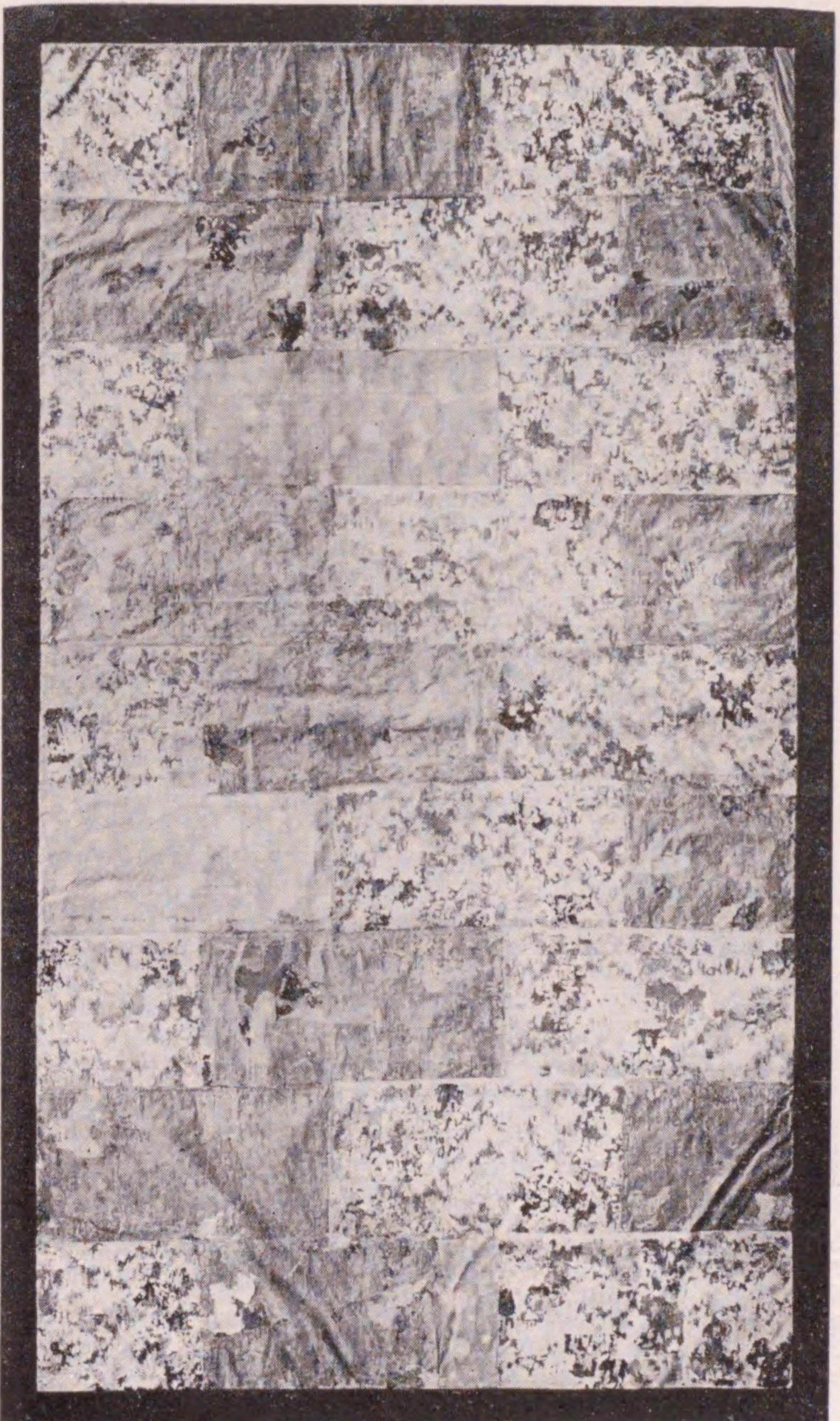
圖版二三

(77)(61)
漆背金銀平脫八角鏡
鳥獸花背八角鏡



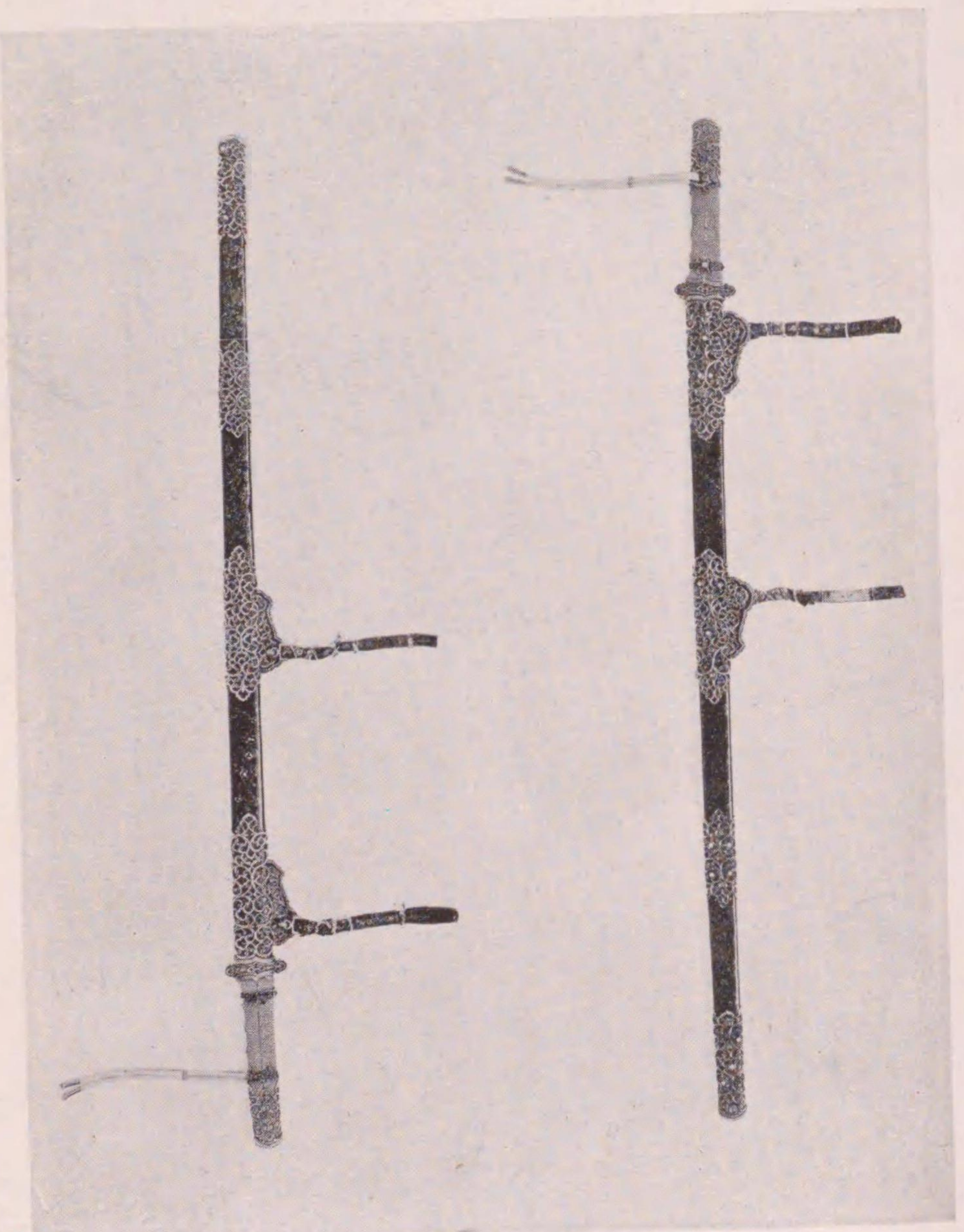
二三

圖版一四



(91) 九條刺納樹皮色袈裟

圖版一五



(96) 金銀鈿裝唐大刀

圖版一六



(97)
花
氈

一六

圖版一七

(98)

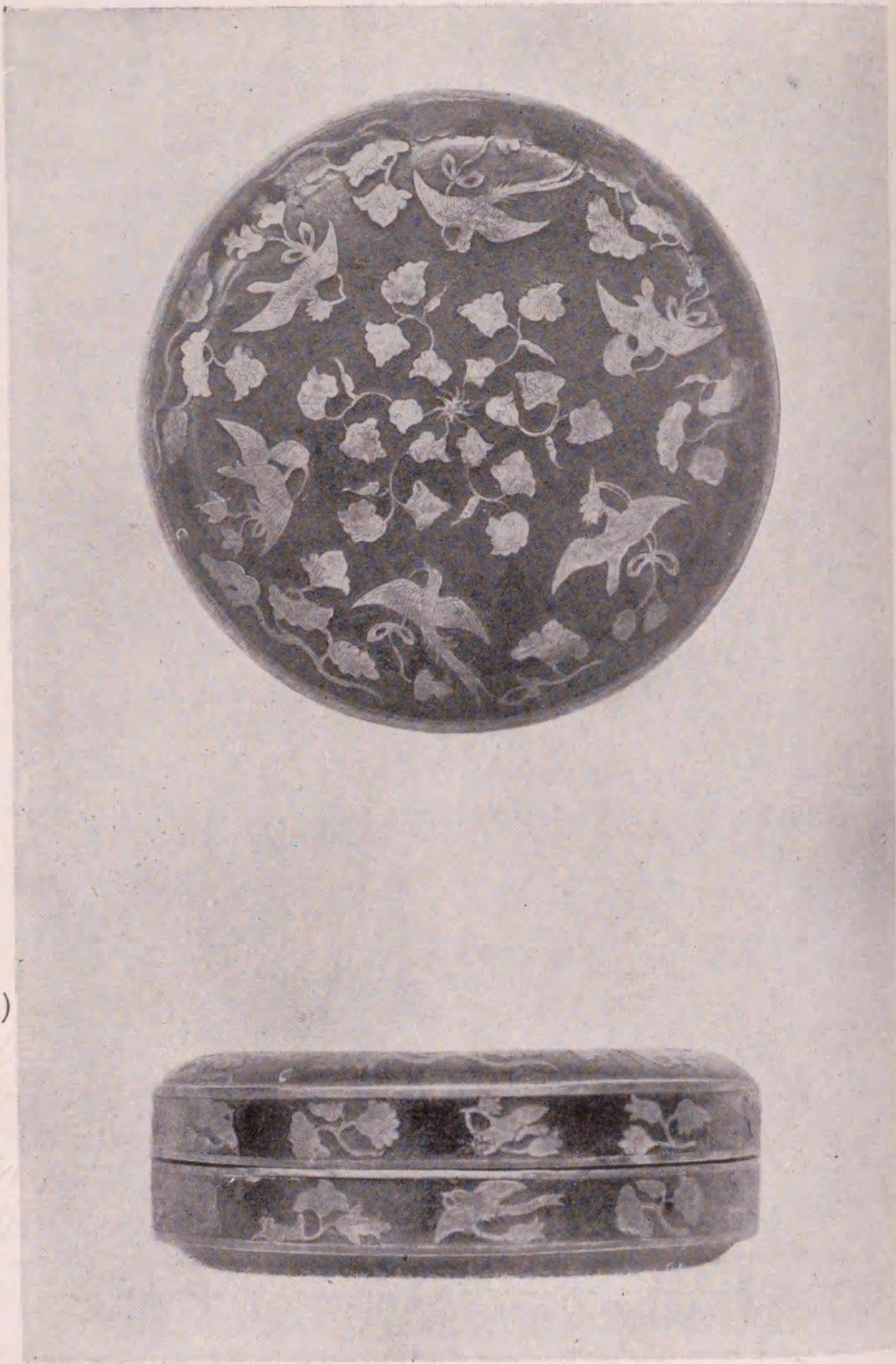
伎樂面

第十七號
第二十七號



一七

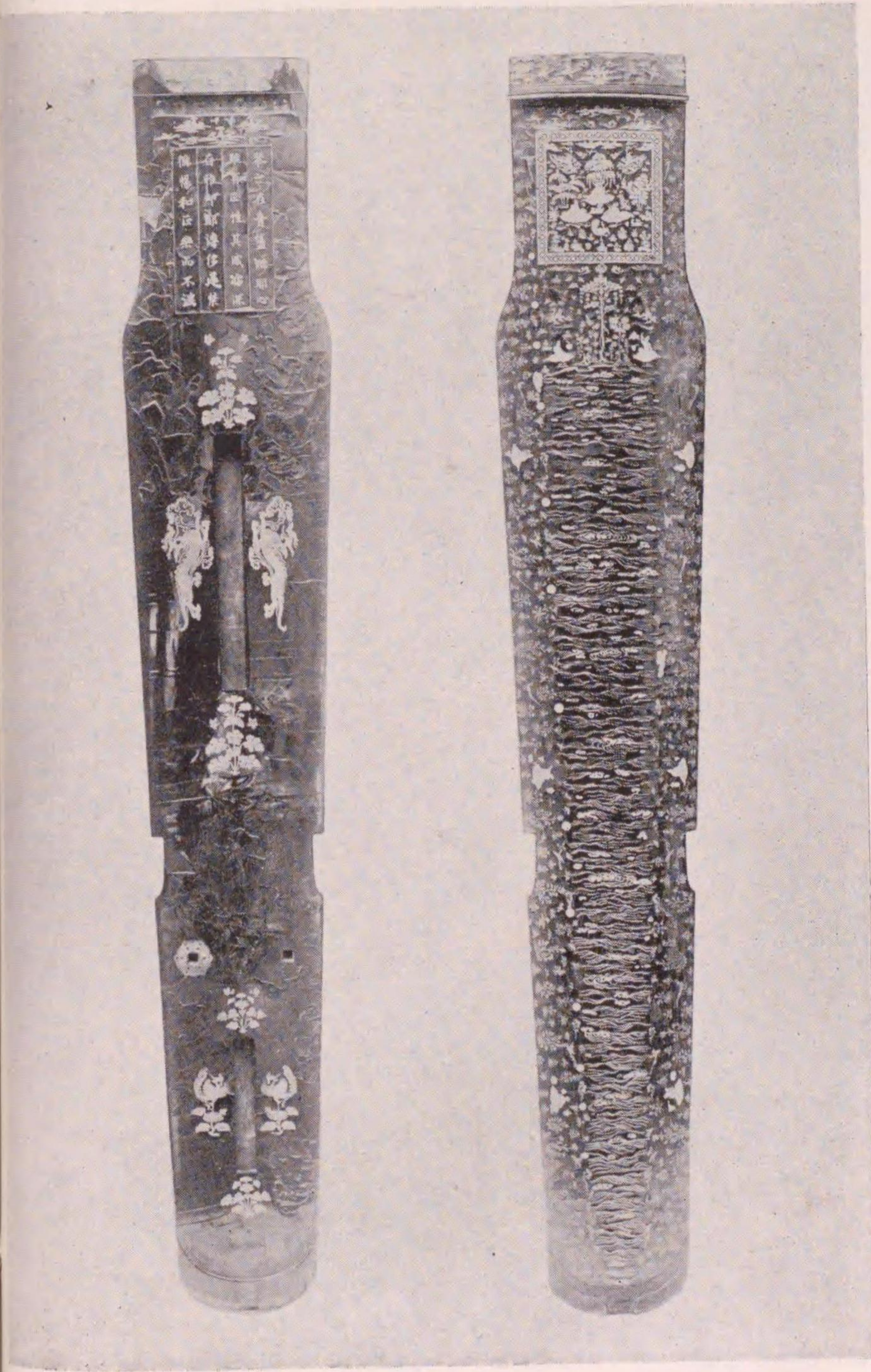
圖版一九



(101) 銀平脫合子

一九

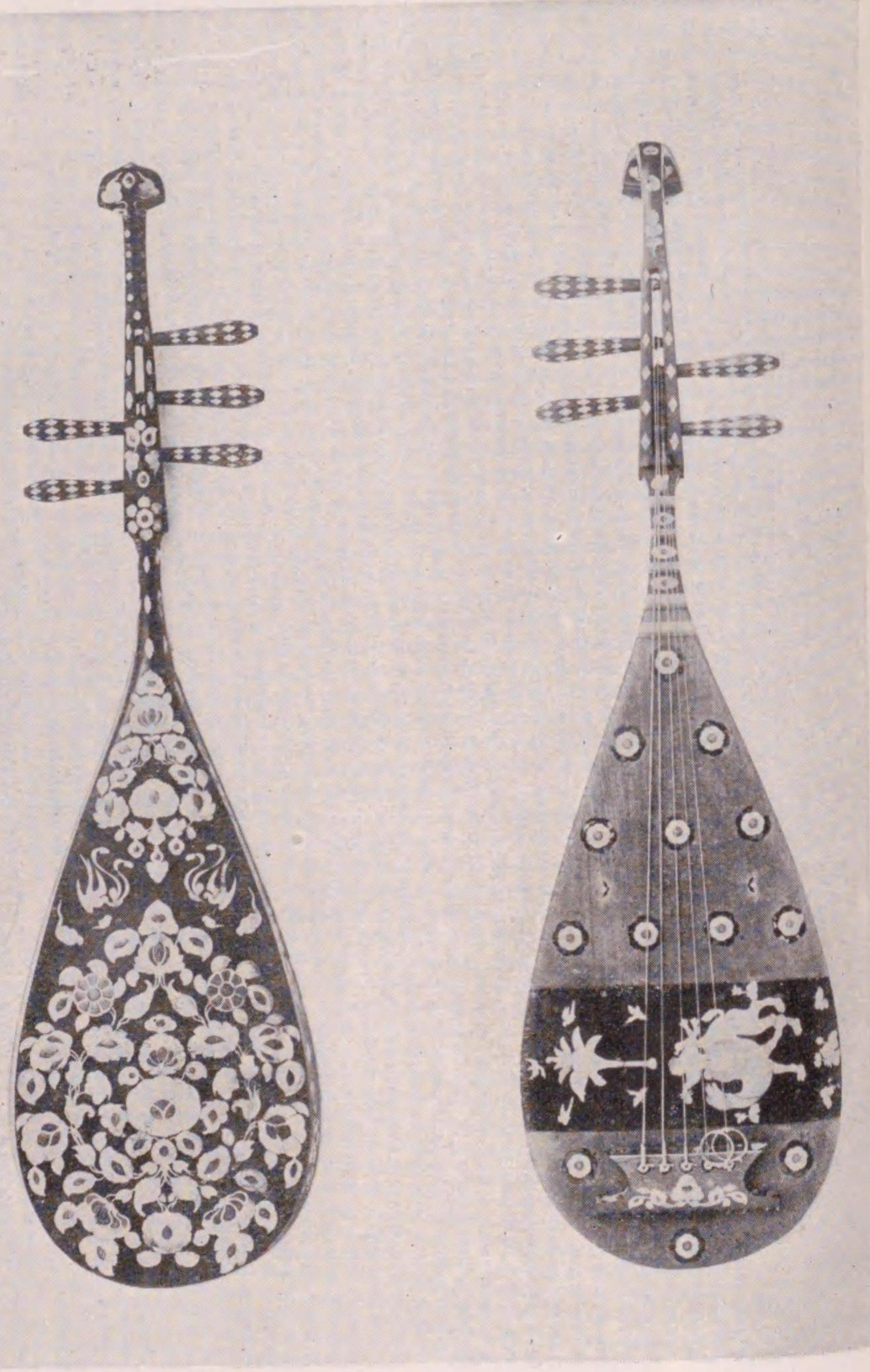
圖版一八



(99) 金銀平文琴表背

一八

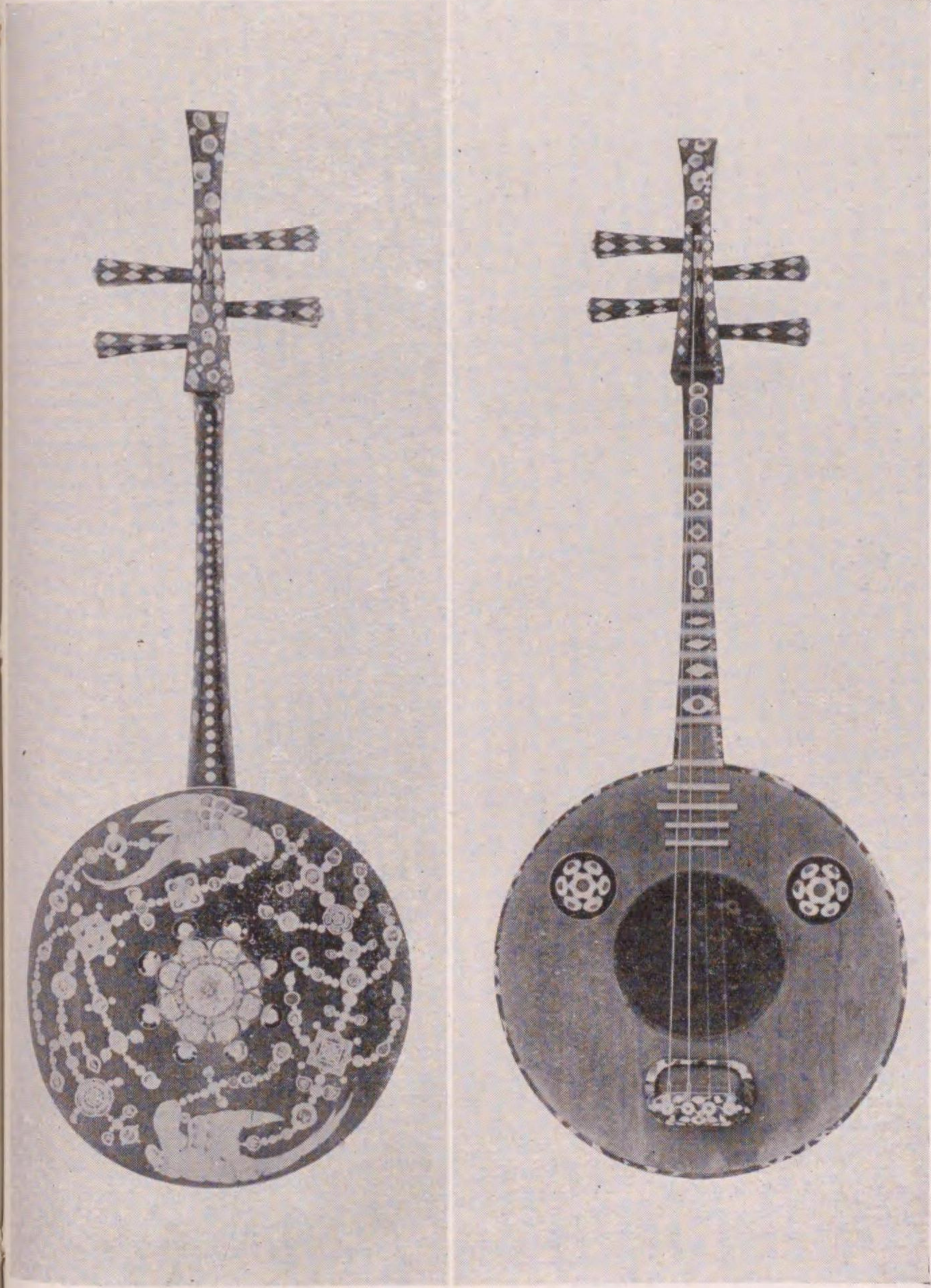
圖版二二



(103) 螺鈿紫檀五絃琵琶

二一

圖版二〇



(102) 螺鈿紫檀阮咸

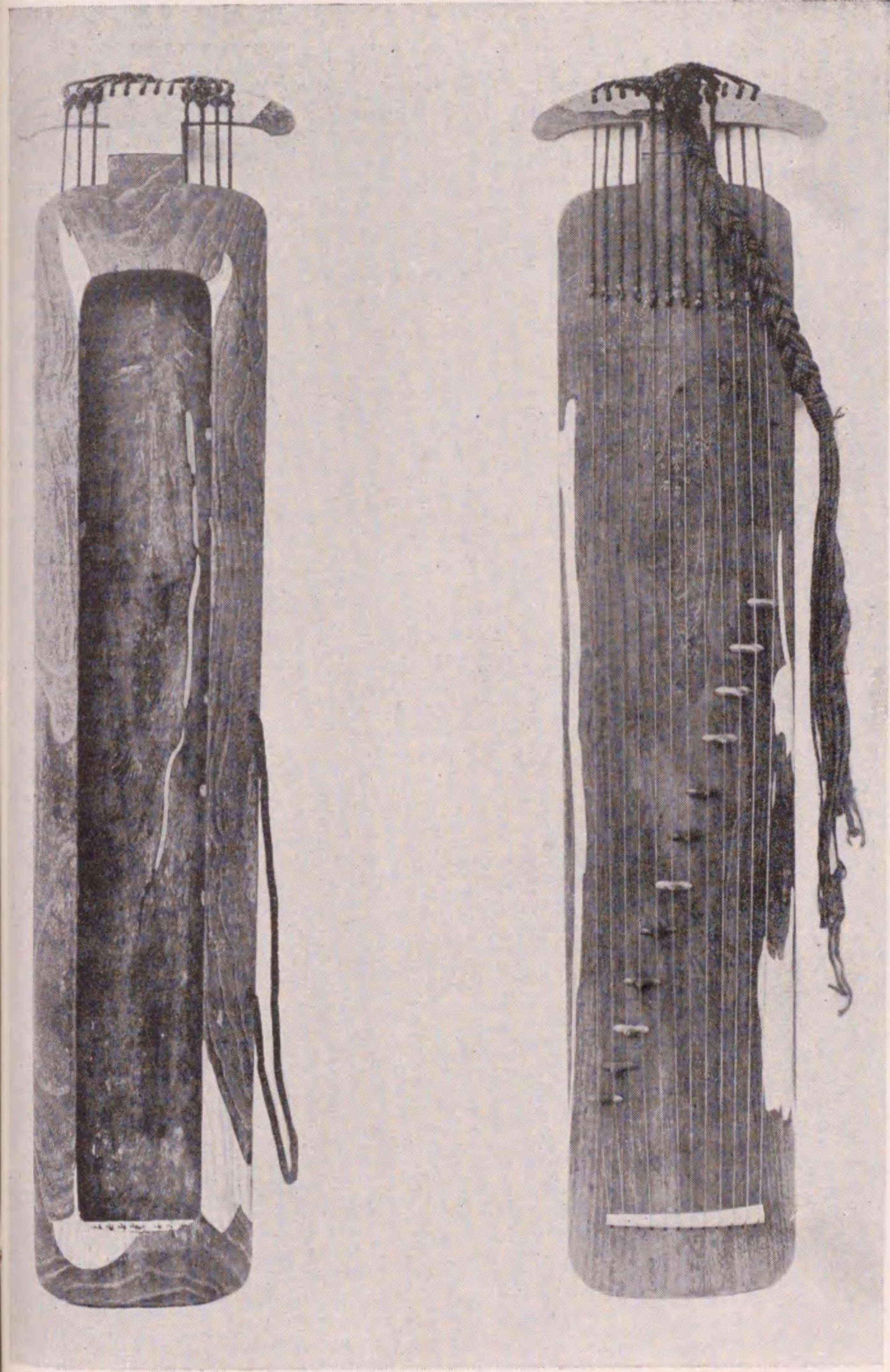
二〇

圖版三三



(121) 鳥毛立女屏風

二三

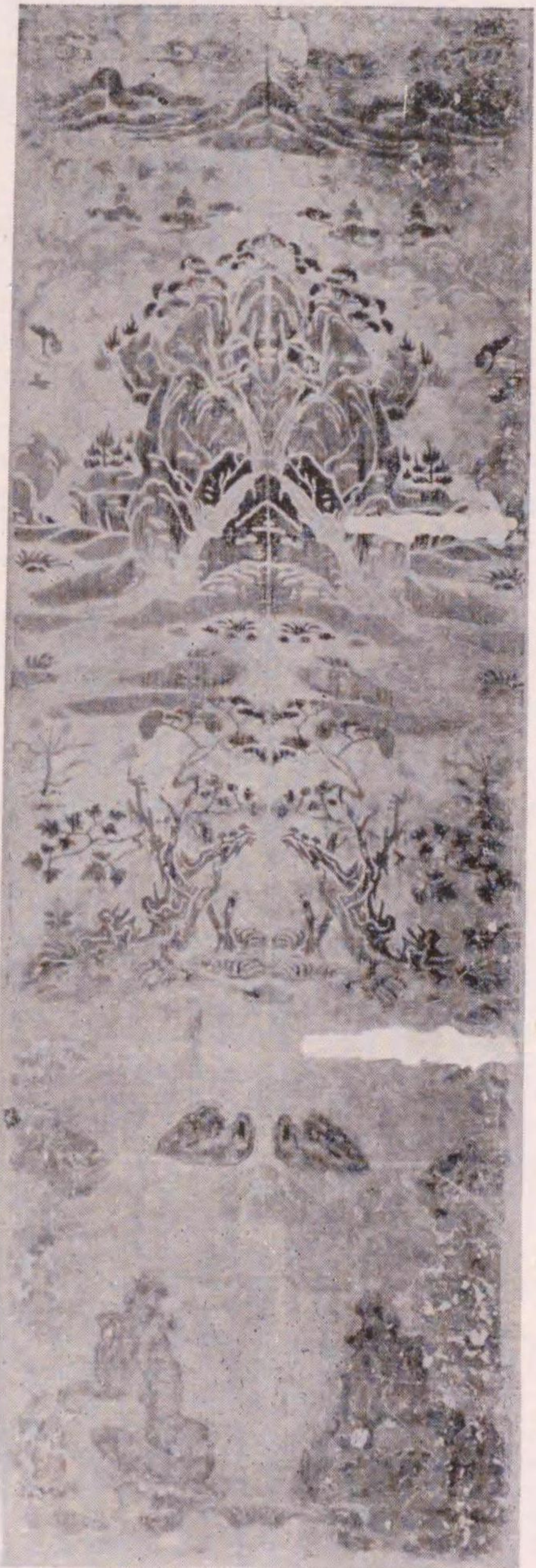


圖版三三

(112) 金薄押新羅琴

三三

圖版二四



(127)(122)

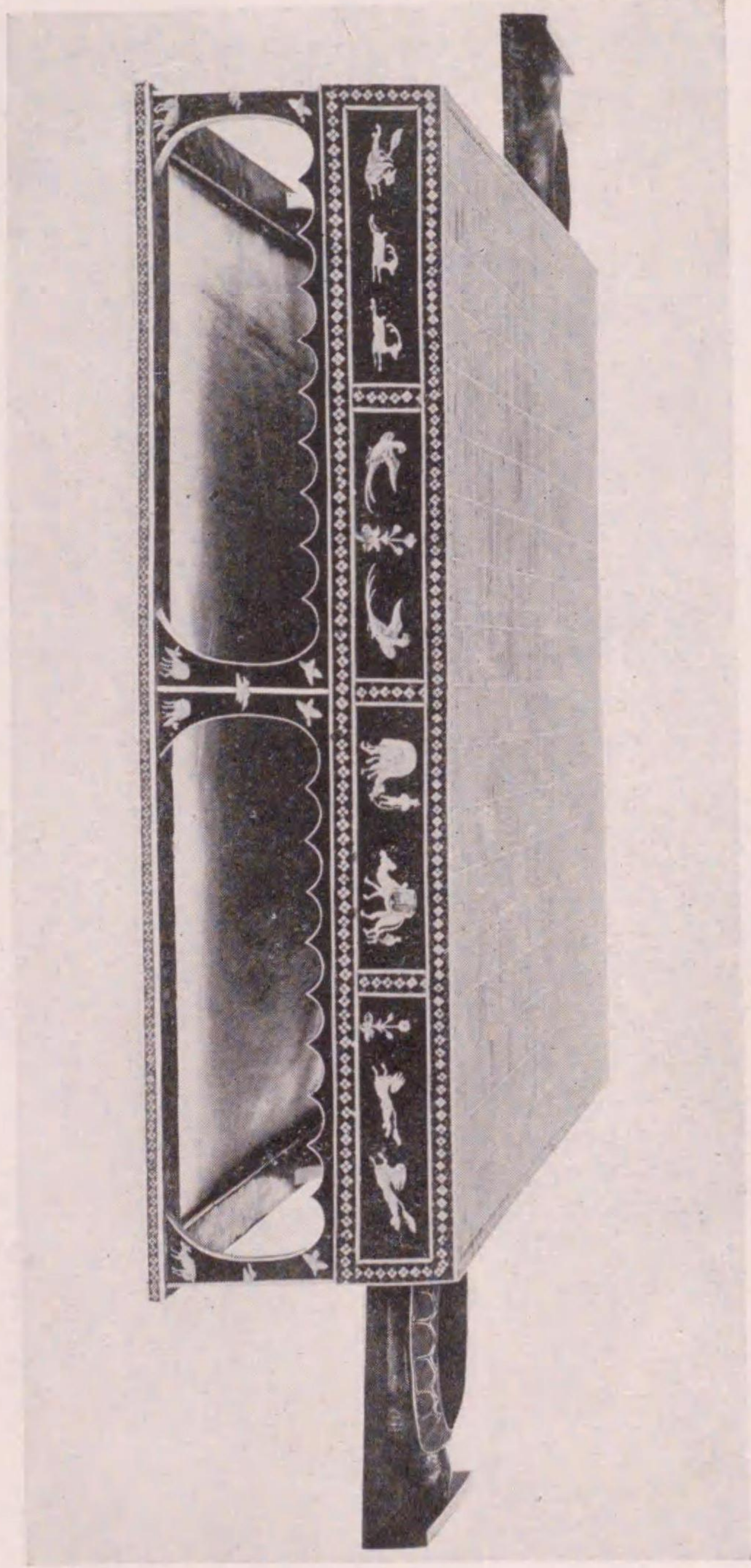
二四
山 水 夾 纈 屏 風
藤 纈 屏 風

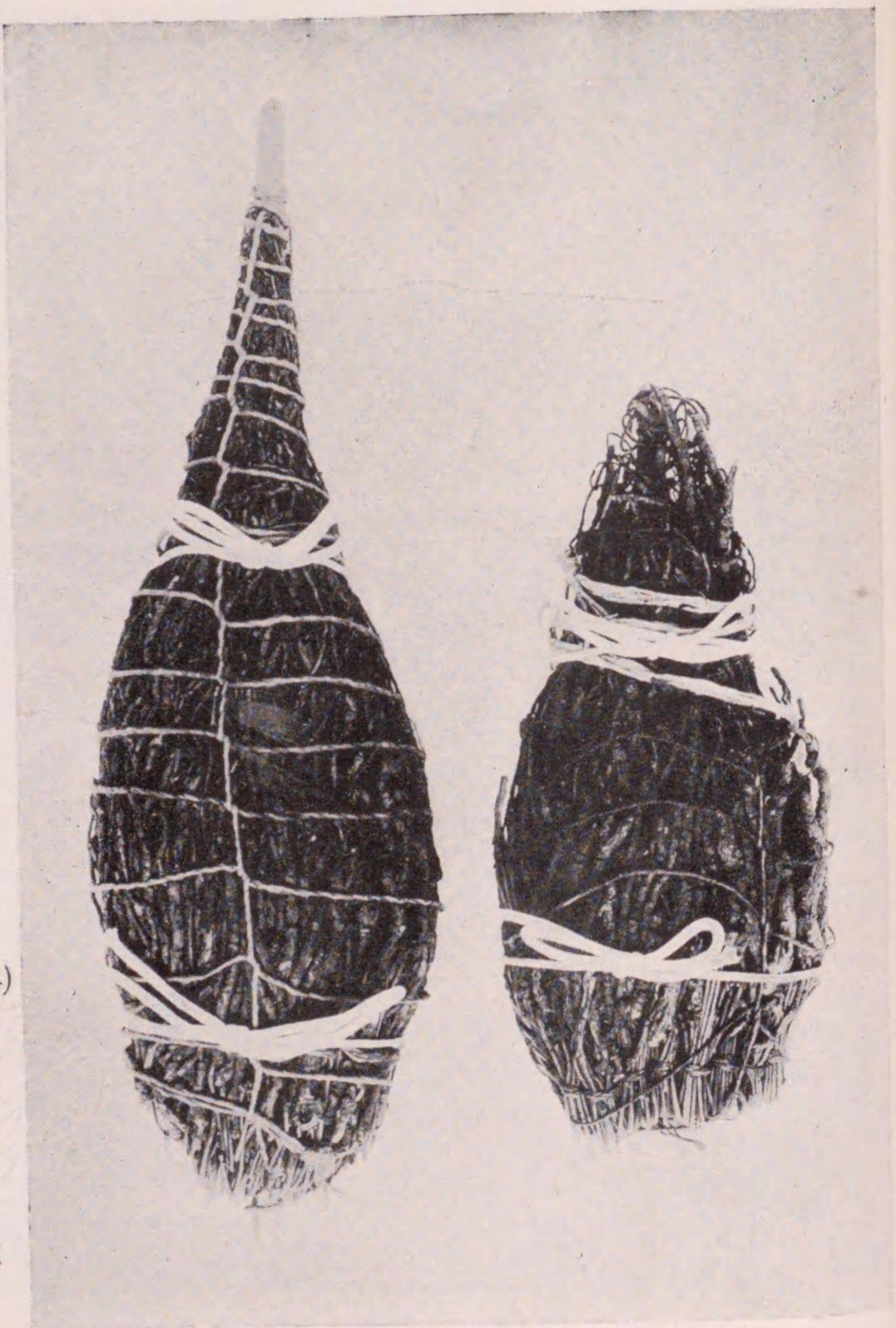
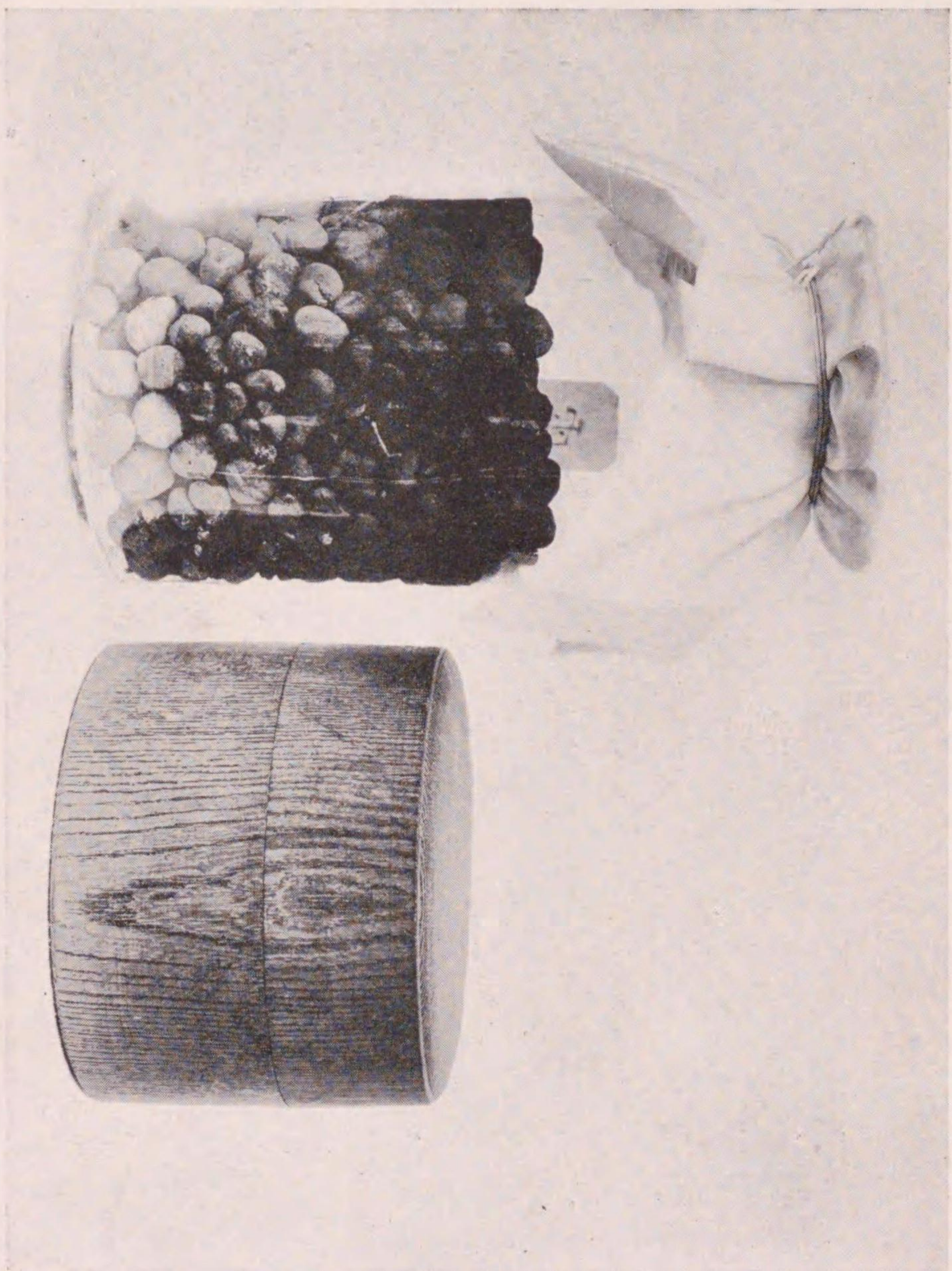


圖版二五

(128)

木 畫 紫 檀 棊 局





圖版二八



(160)
芒
消
壺

圖版二九

(201)
白石鎮子午未





(205) 禮服御冠殘闕

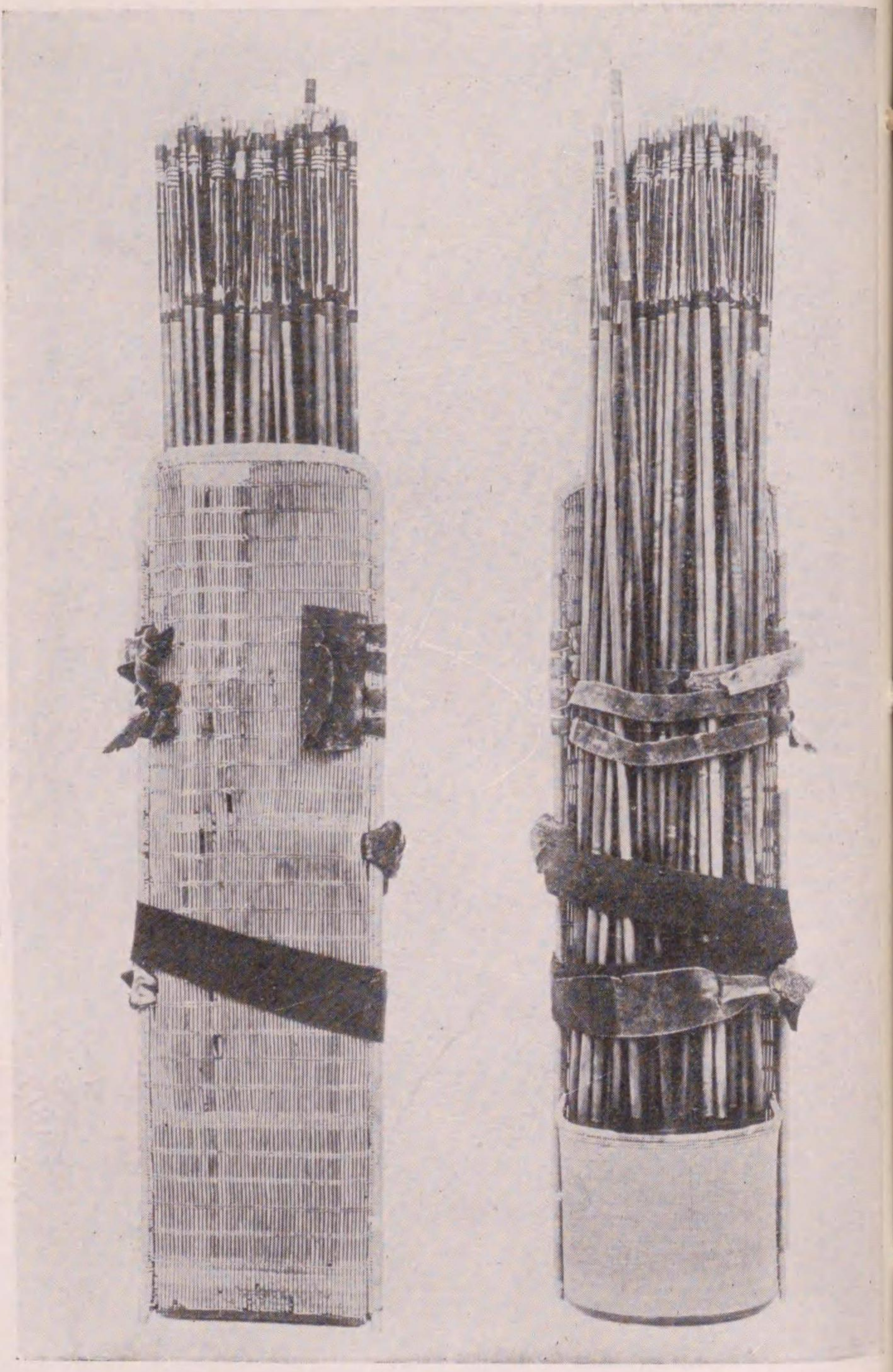
三〇



(207)

全淺香

三一



圖版三三

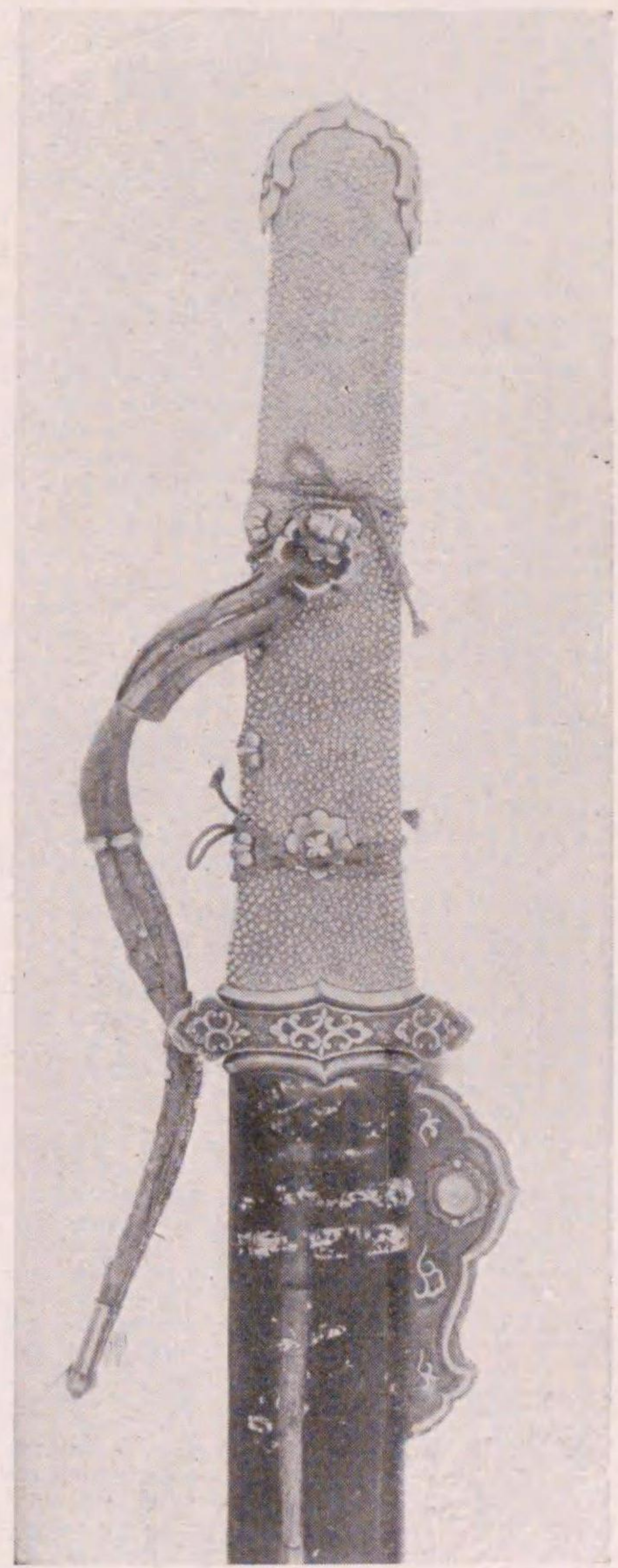
(346)

白葛胡祿表背

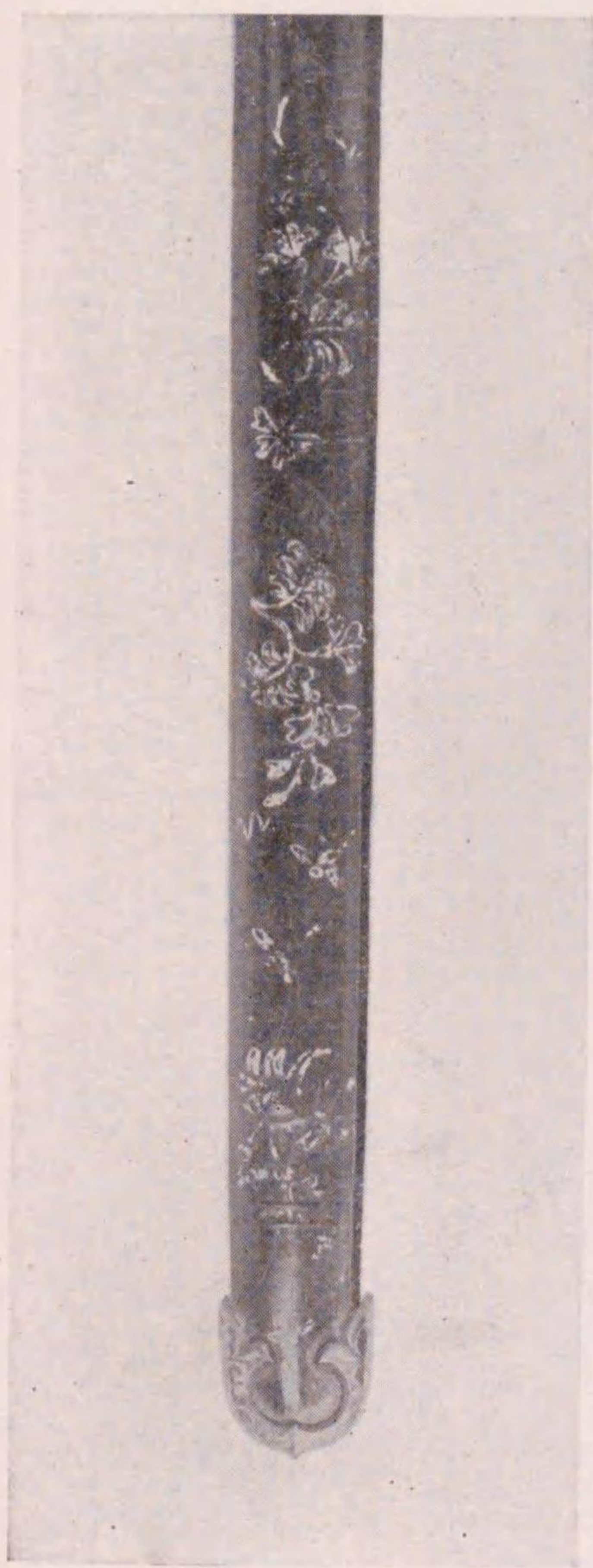
三三

圖版三二

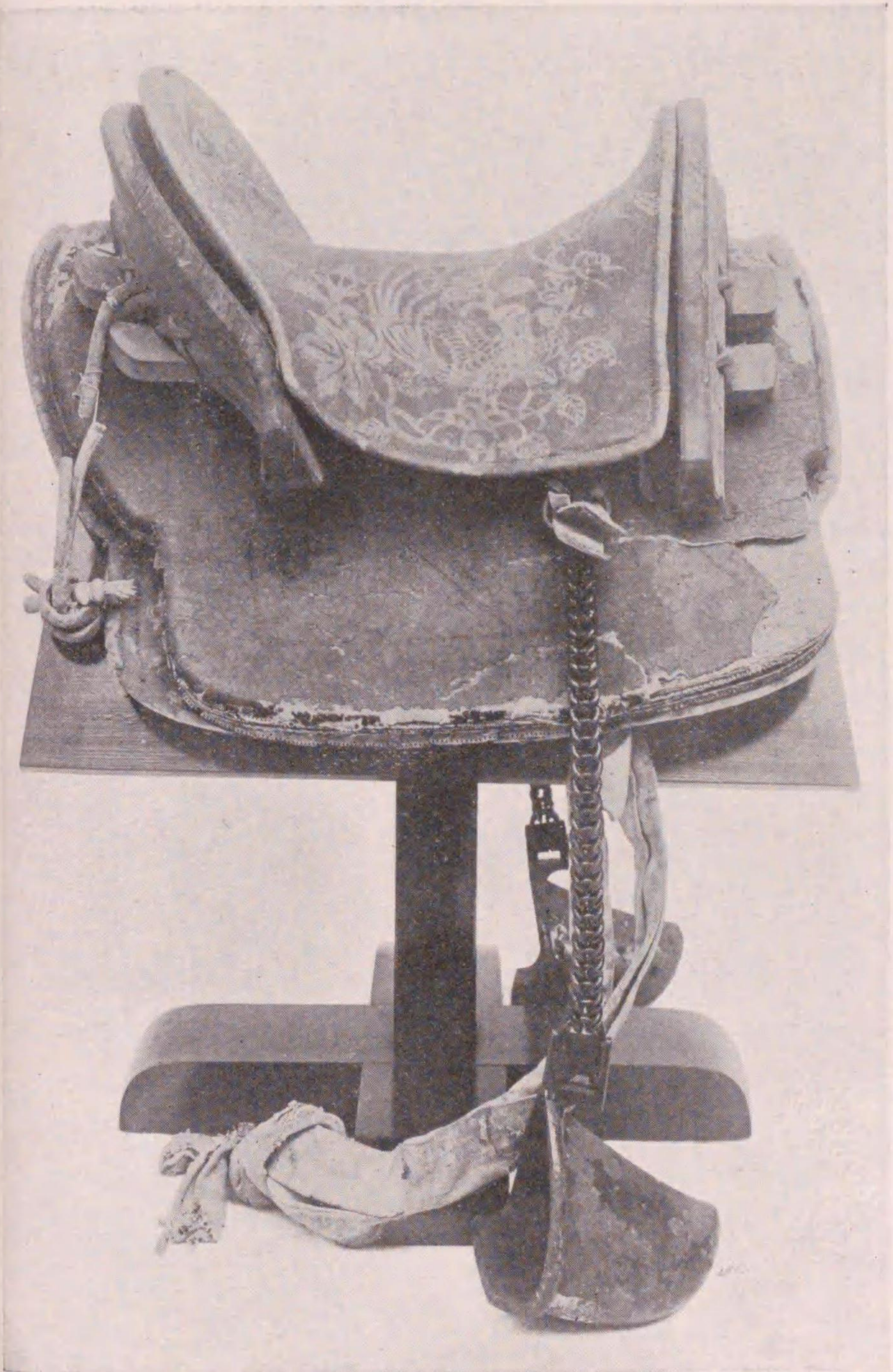
(207)



金銀鈿莊唐大刀第二號



三二

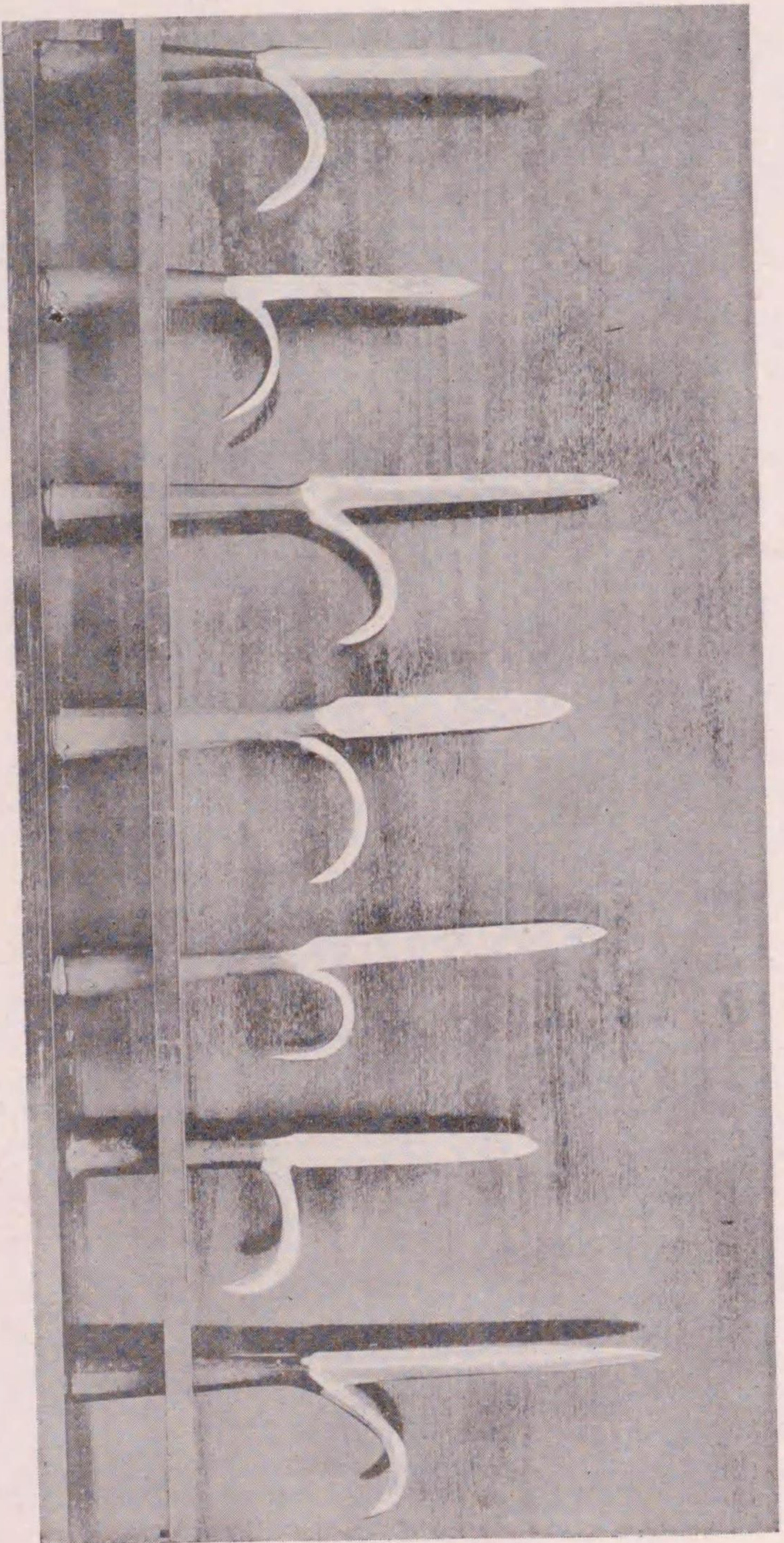


圖版三四

黑梯鞍第五號(陳列外)

三四

圖版三五

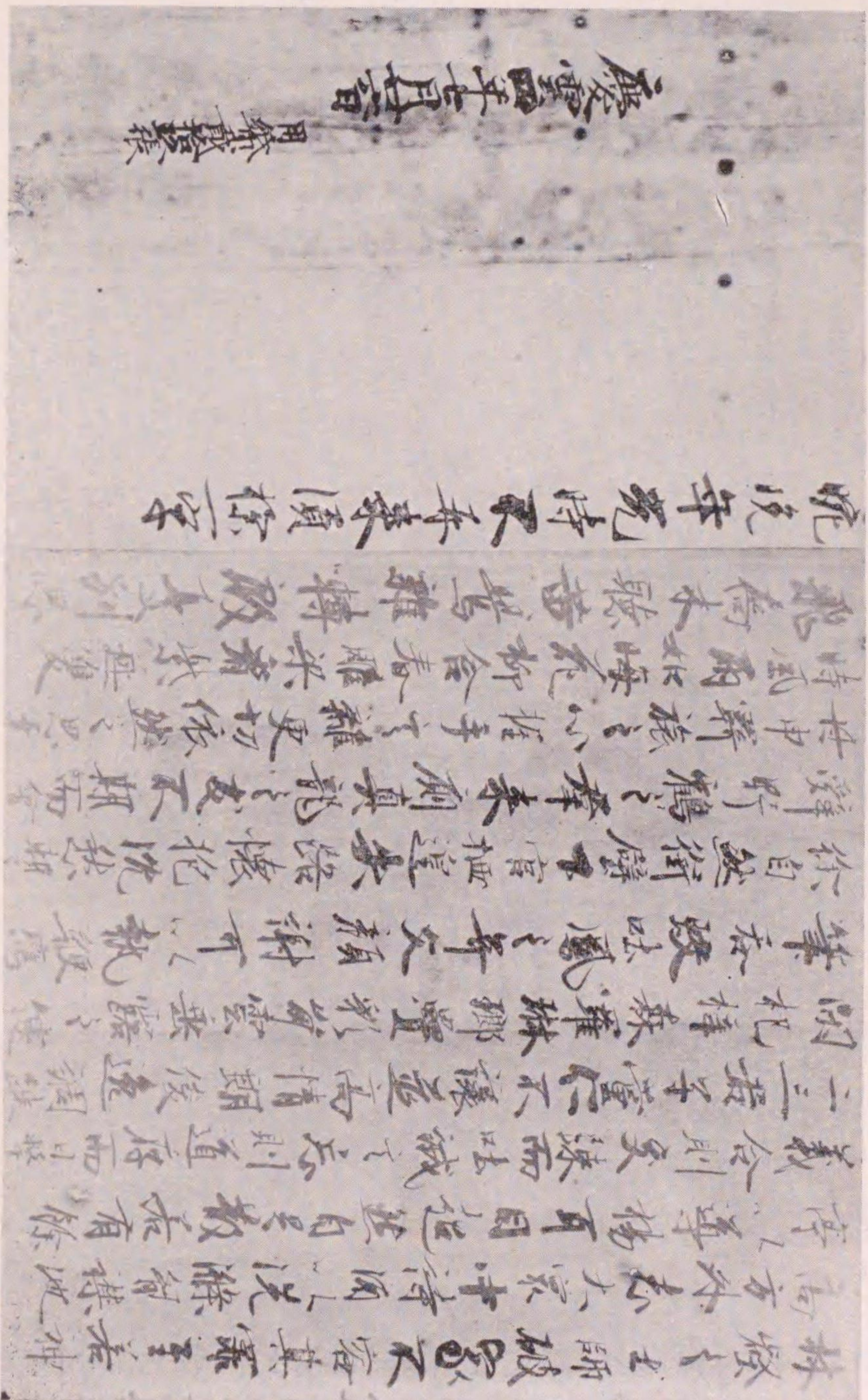


(354)

鉞

乃

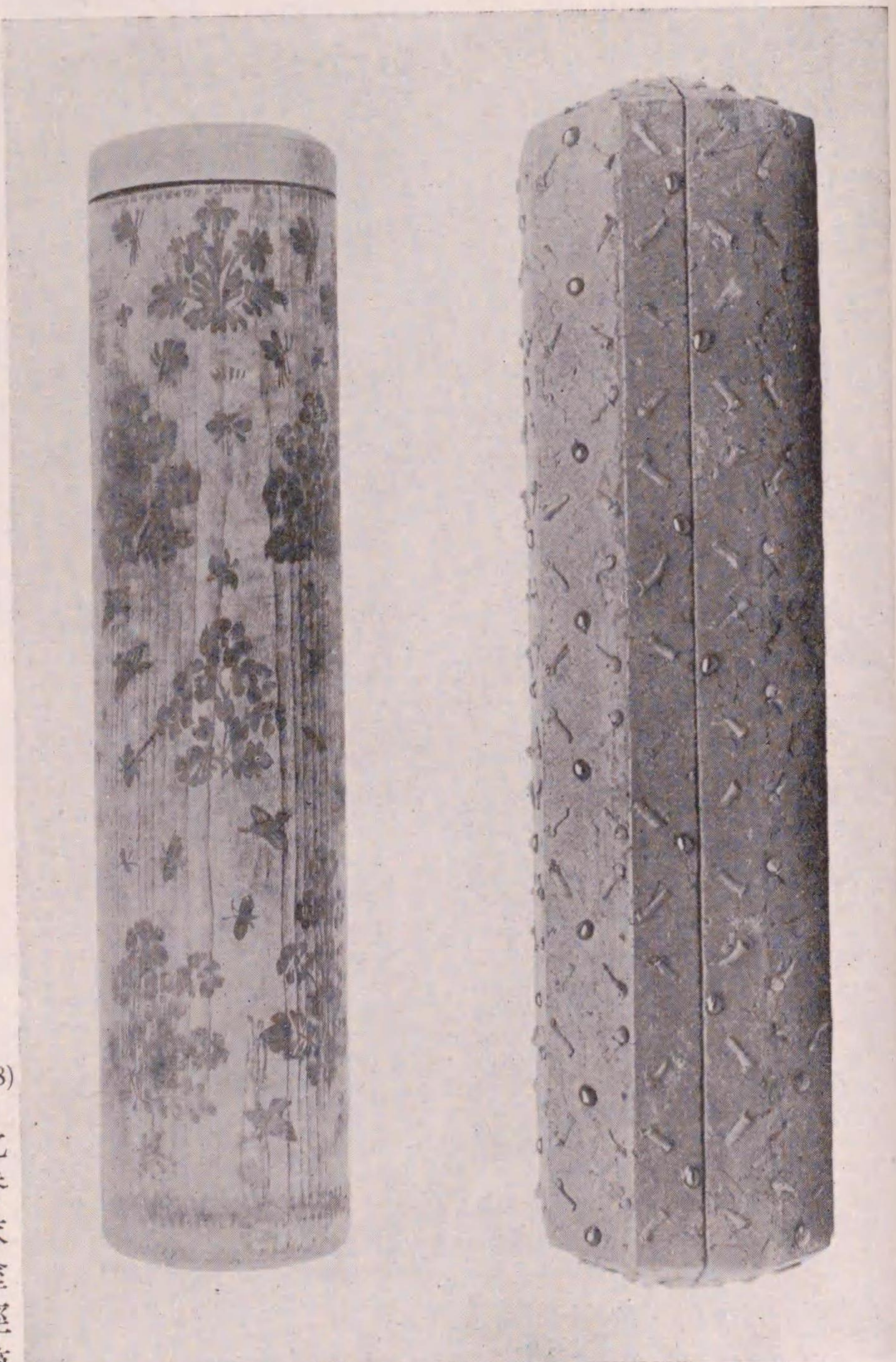
三五



圖版三六

(357)

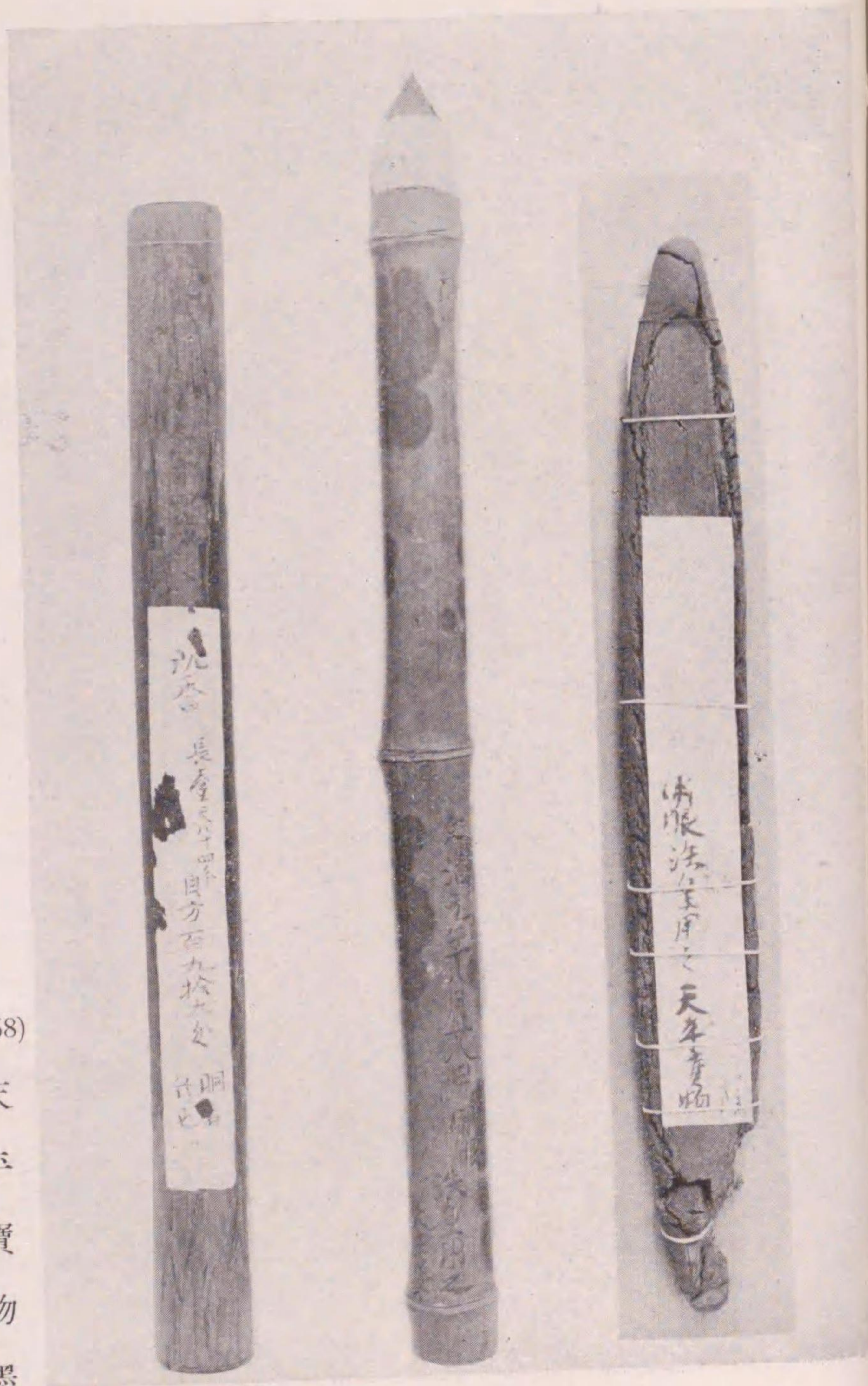
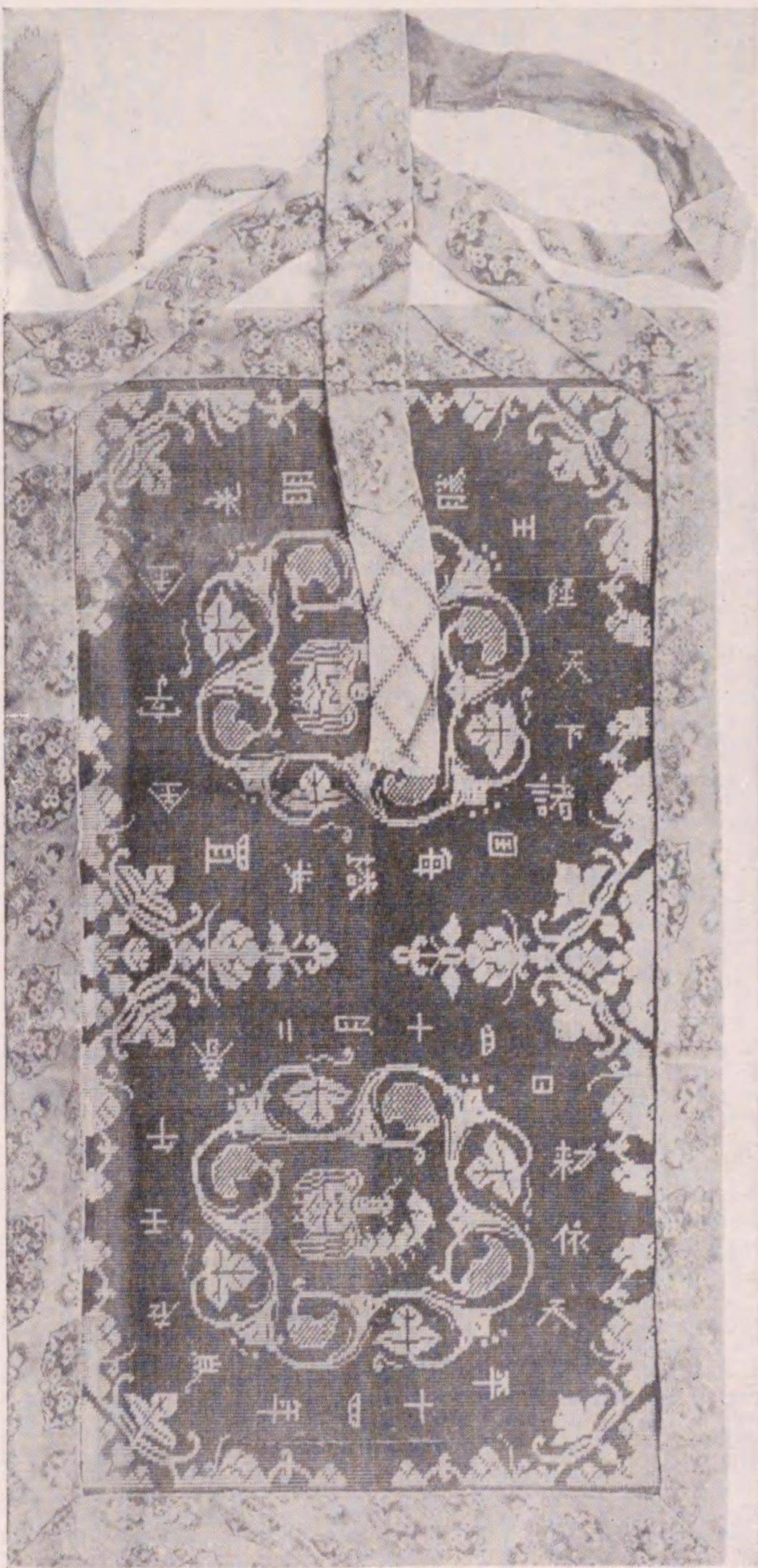
詩序卷尾



(360)(358)

沈香末塗經筒
 檜金銀繪經筒

圖版三七

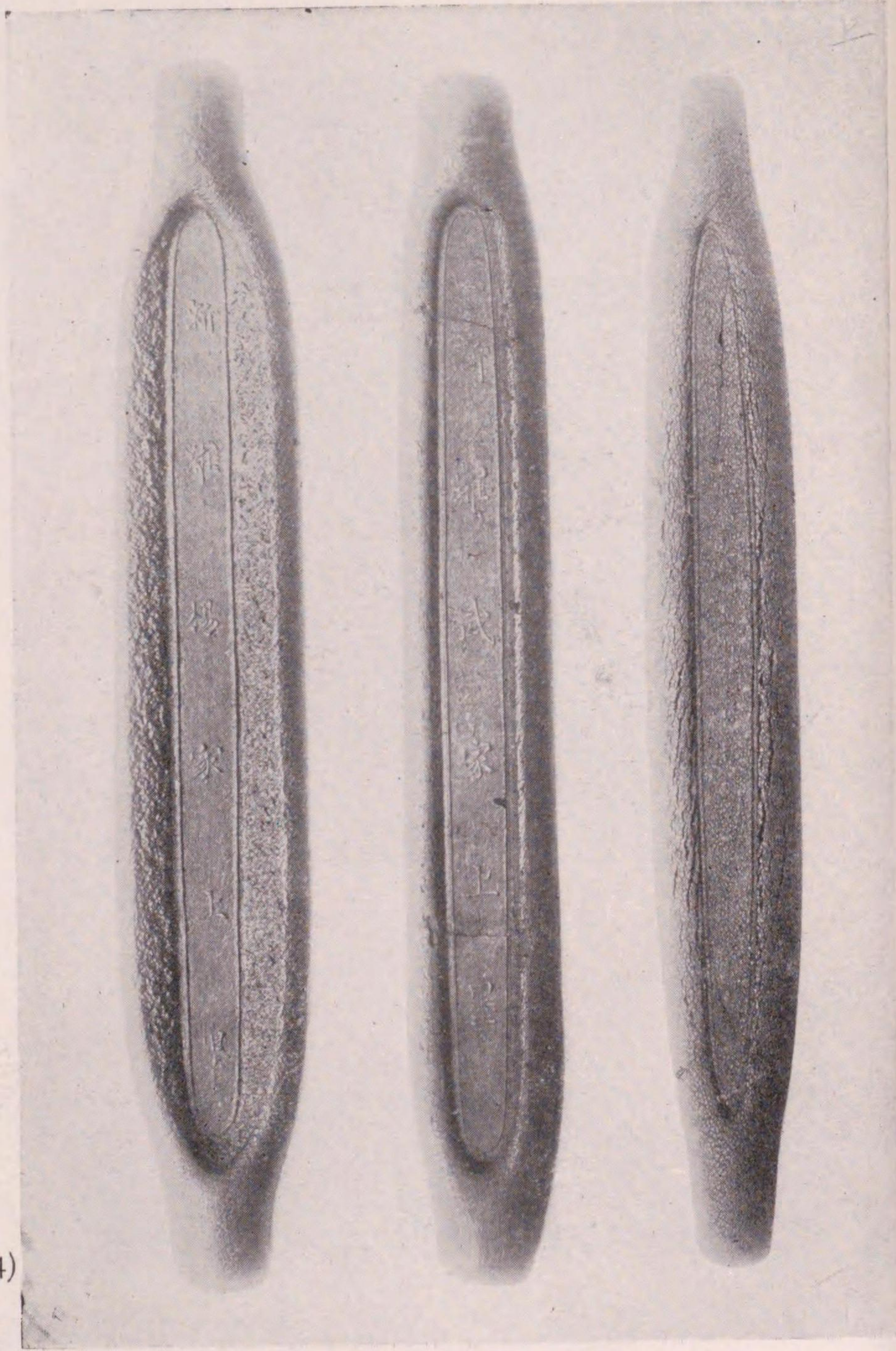


圖版三九

(370)(369)(368)

天 天
 平 平
 寶 寶
 物 物
 筆 筆
 管 管
 未造了沈香木畫筆

圖版四一

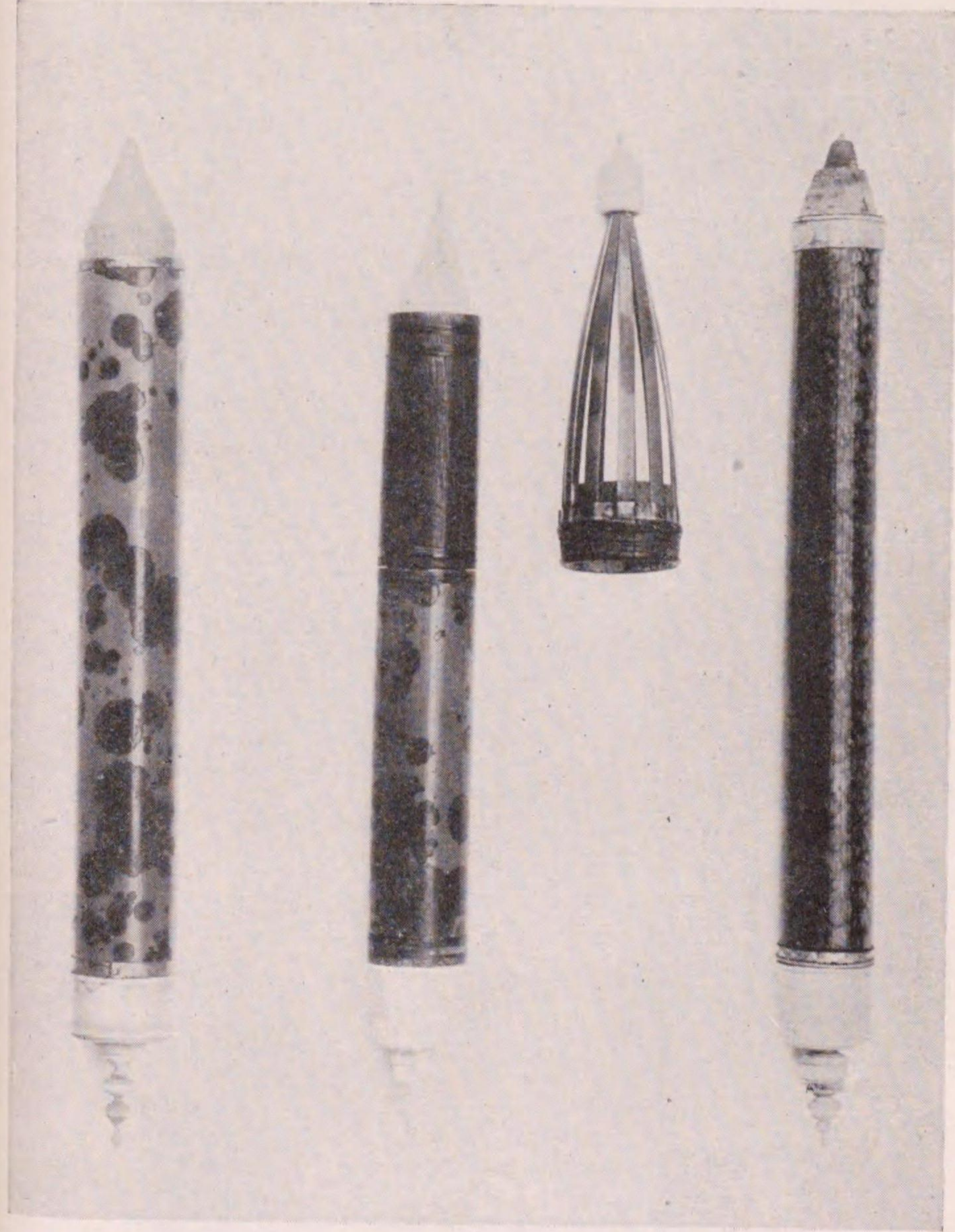


四一

(374)

墨

圖版四〇

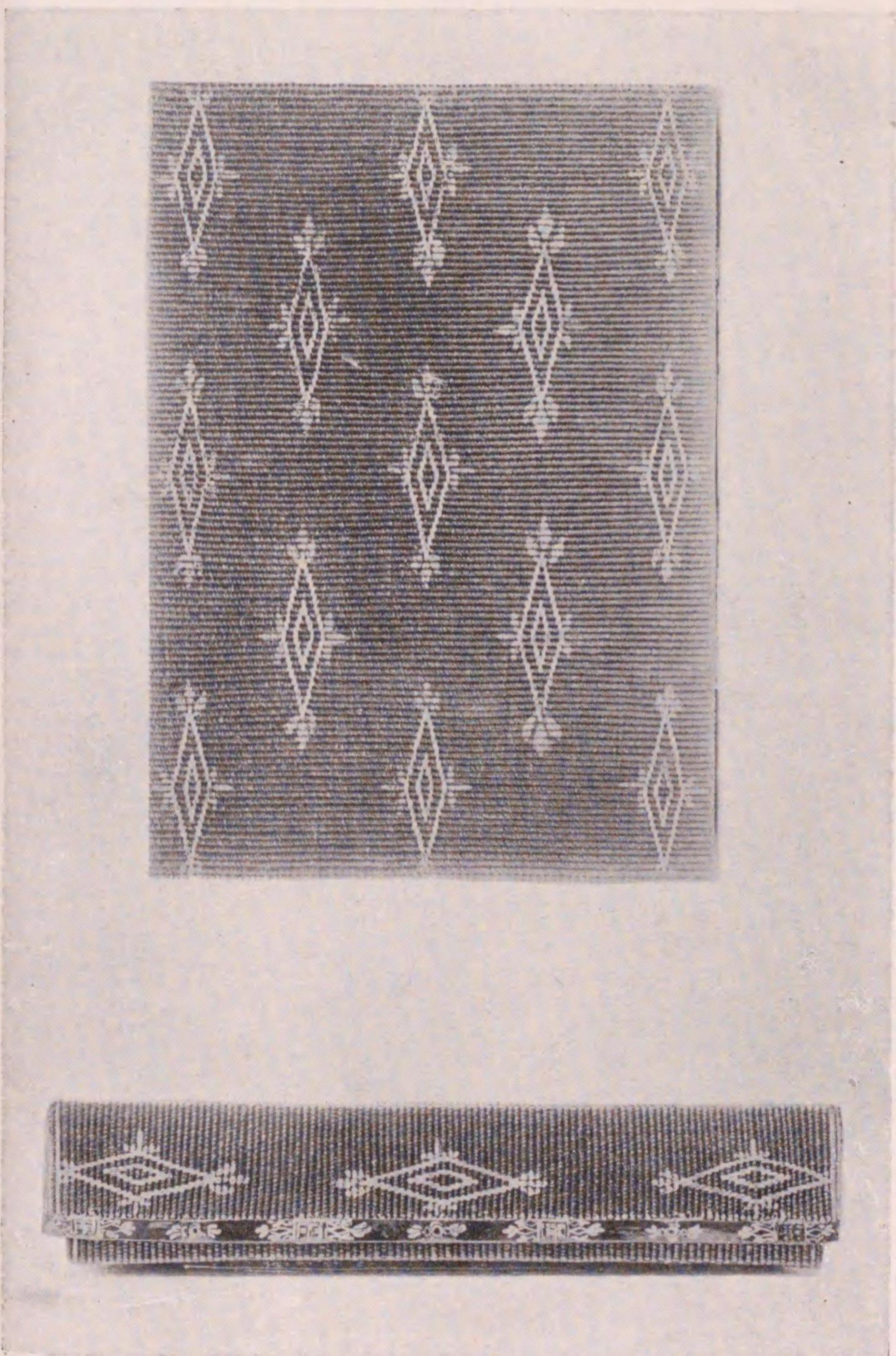


(371)

筆一號、二號、三號

四〇

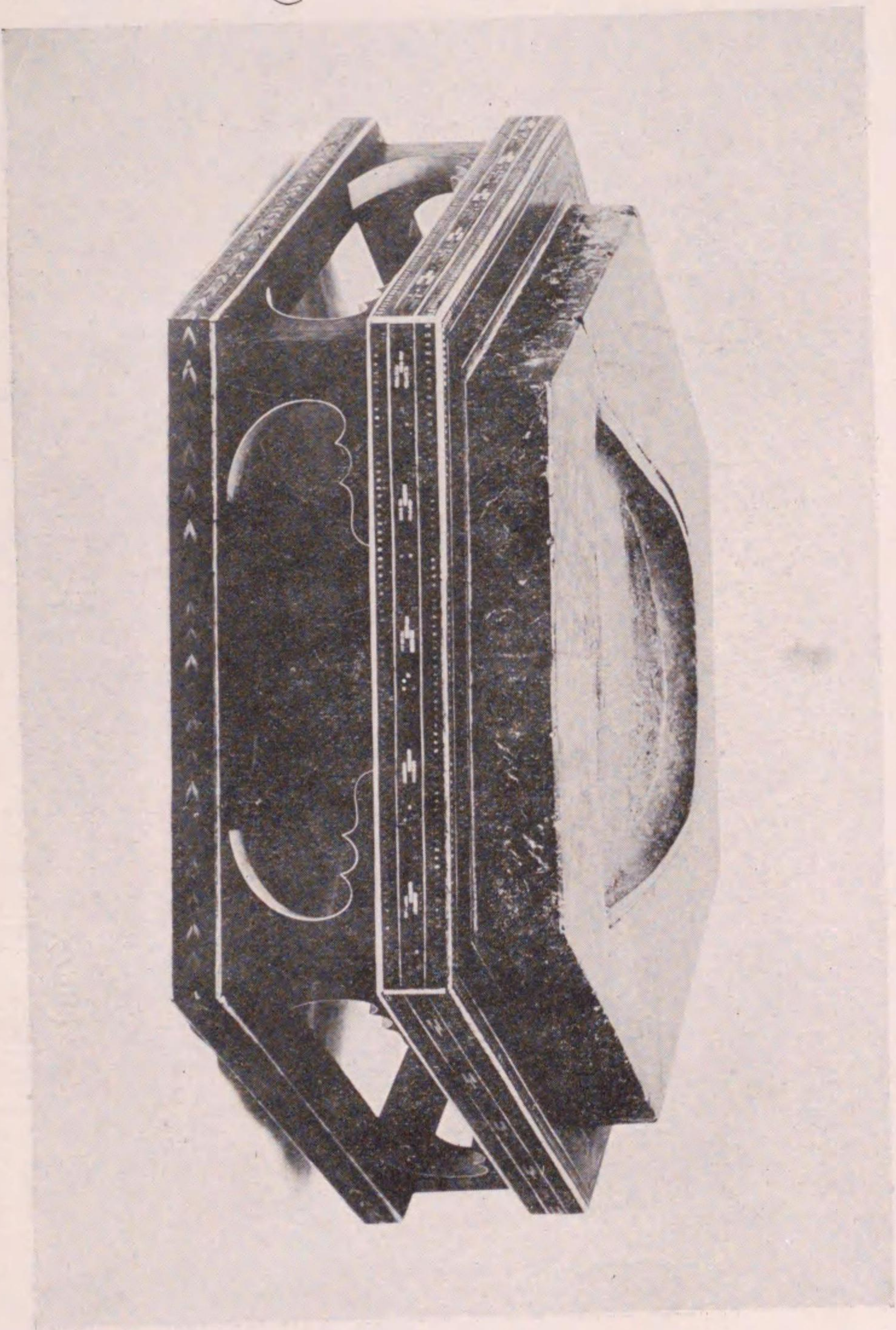
圖版四二



(377)

赤漆葛箱
四二

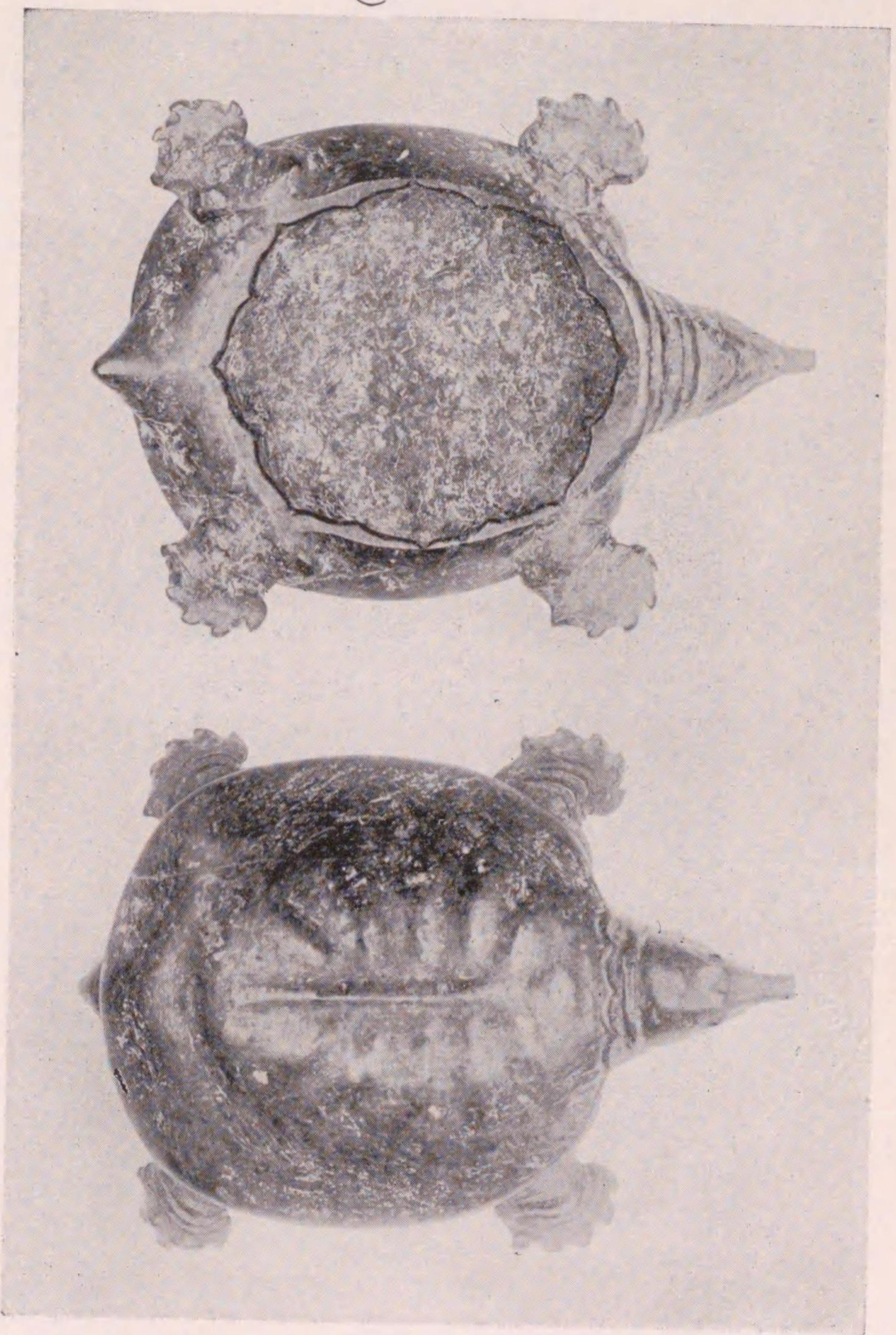
圖版四三



(384)

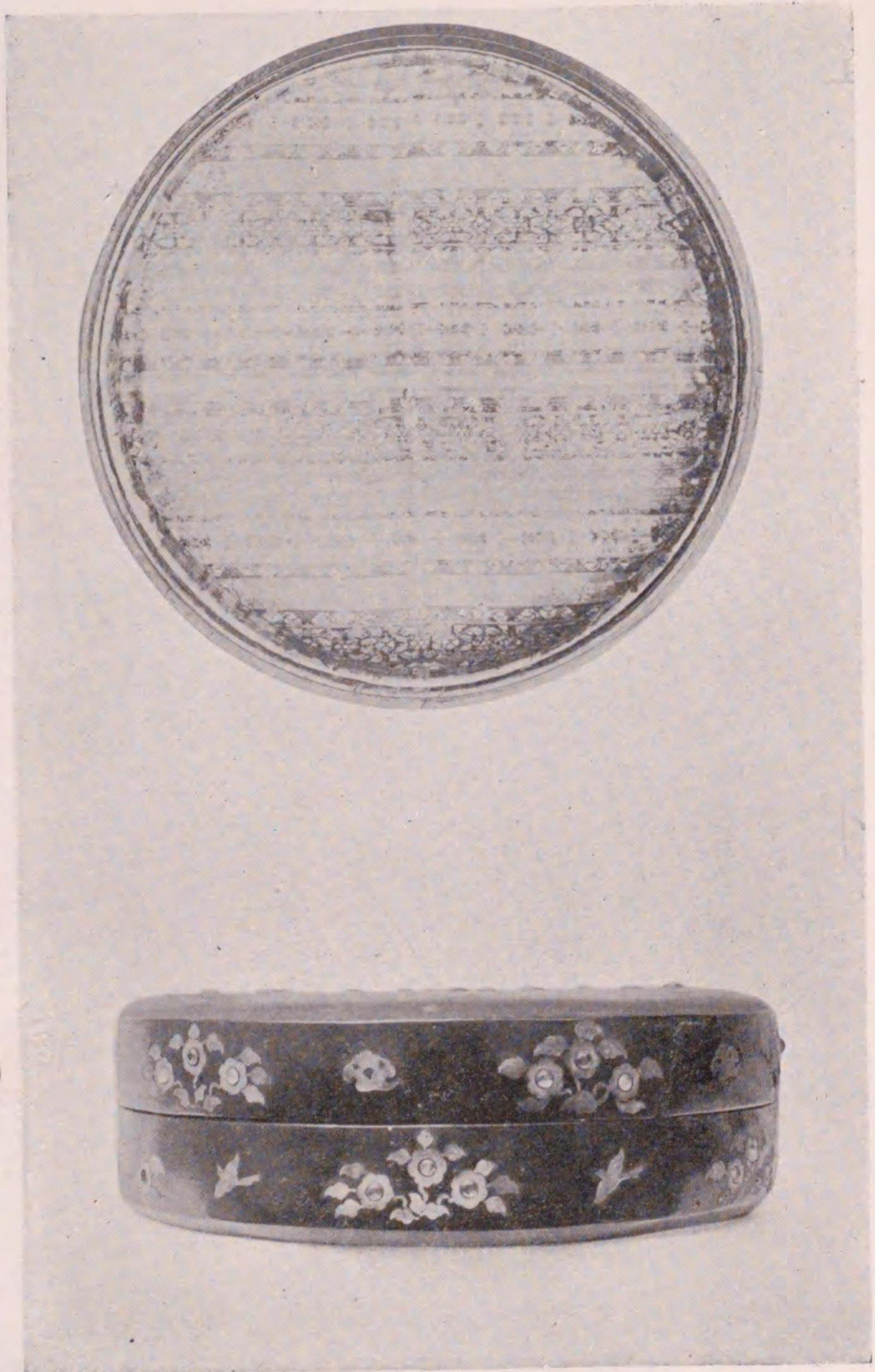
青斑石硯

圖版四四



四四

(385)
青斑石鼈合子

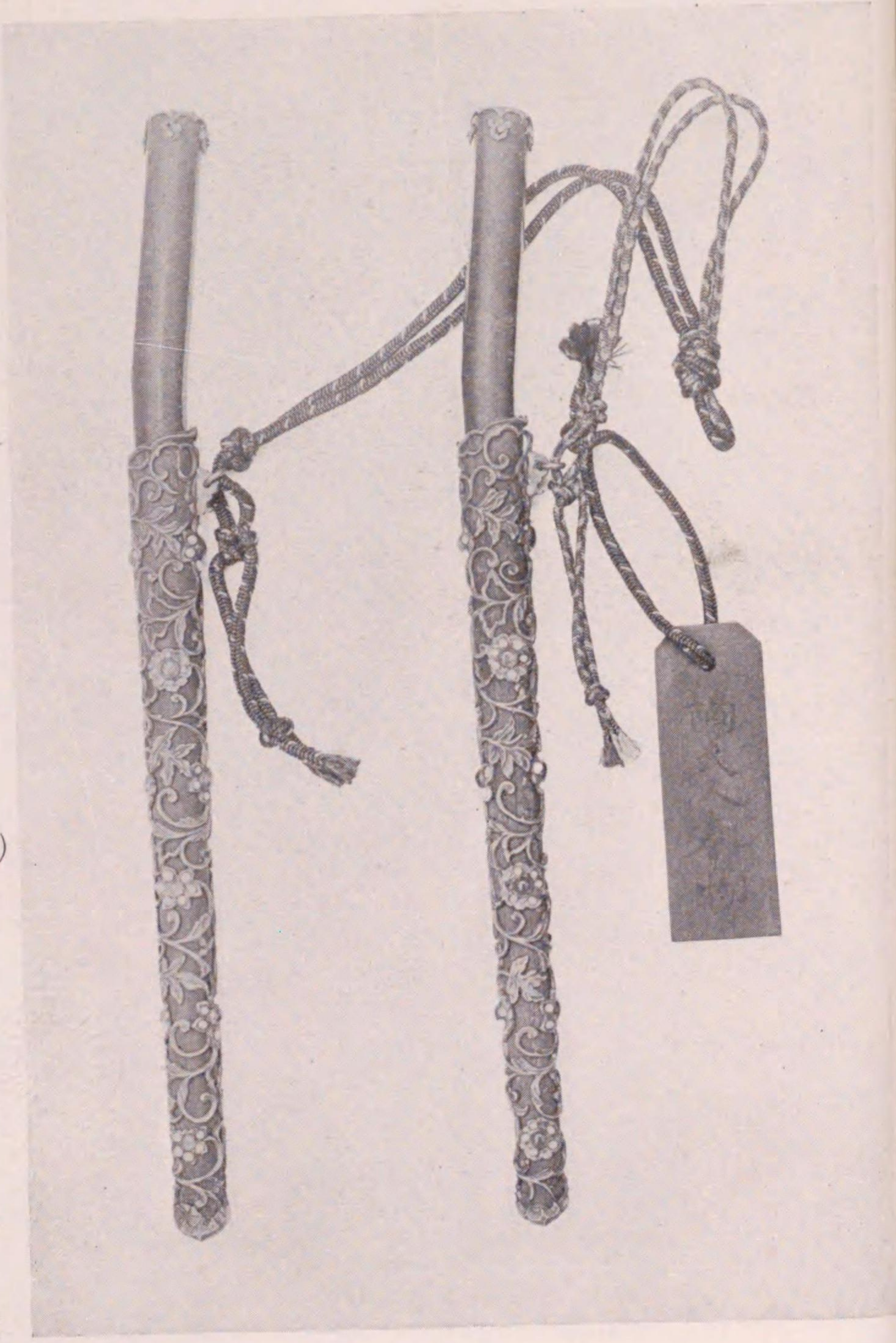


圖版四五

(415)

螺
鈕
箱
四五

圖版四七

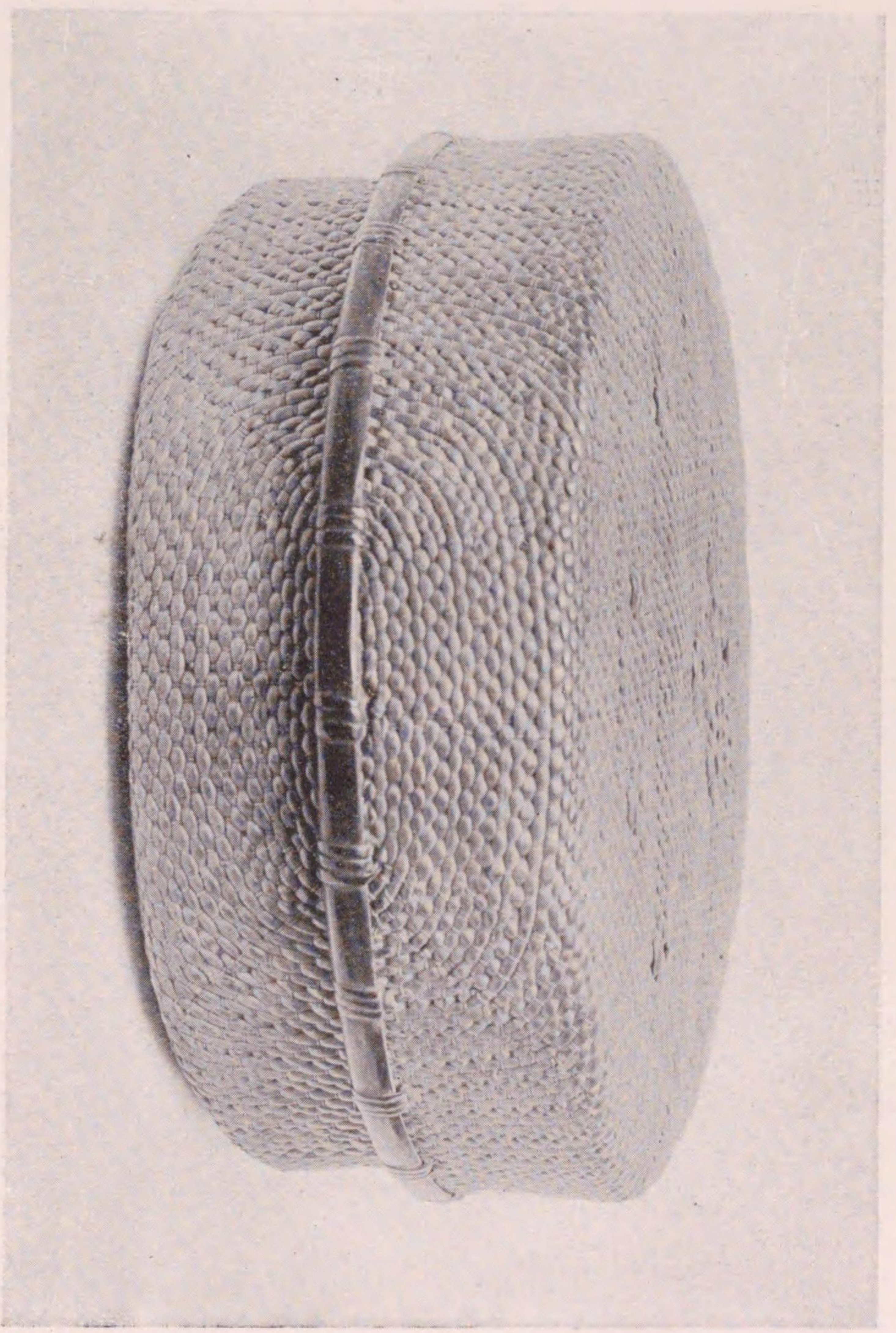


(432)

刀
子
第
七
號

四
七

圖版四六

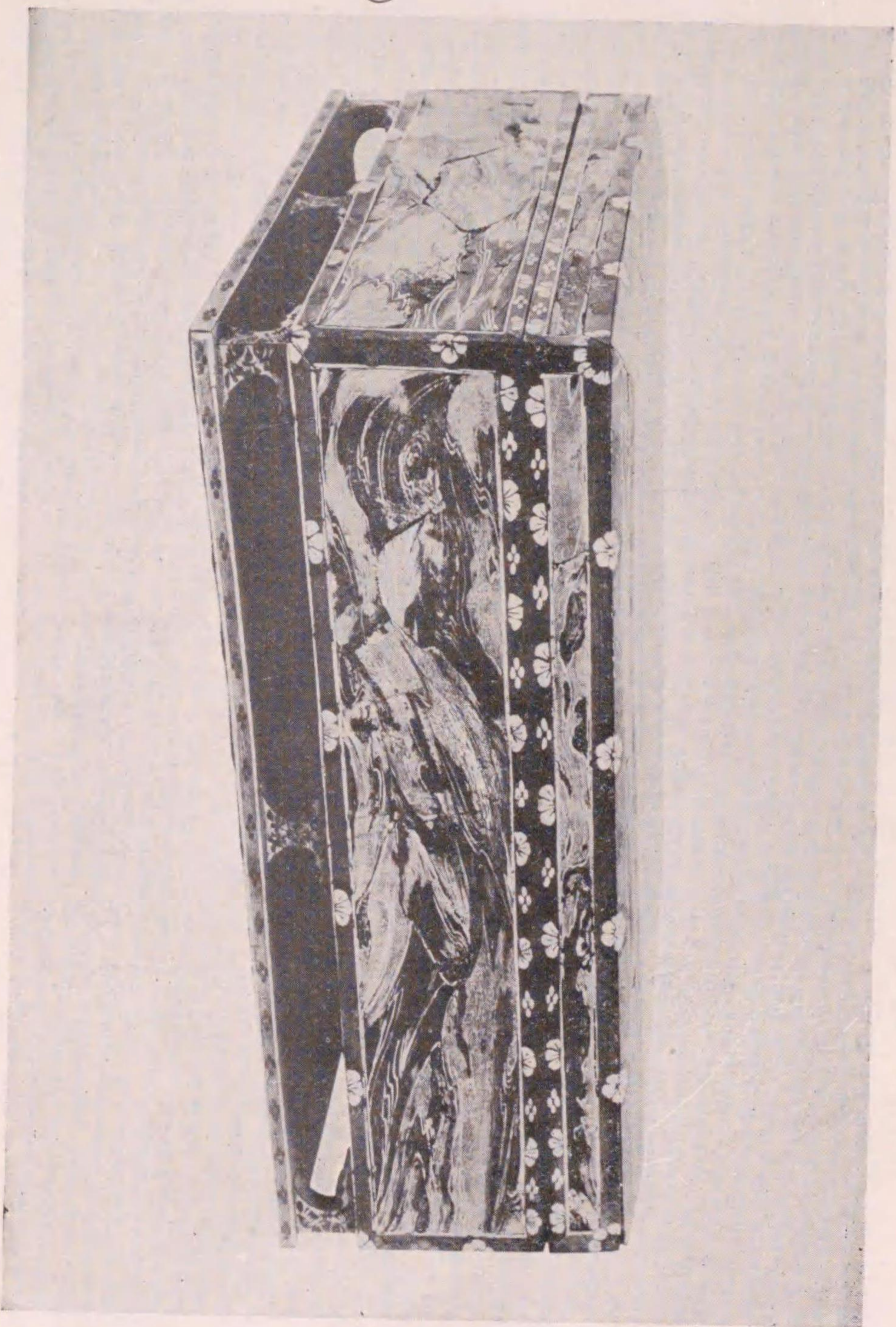


(418)

柳
箱

四
六

圖版四八



四八

(440)
金繪木理箱

圖版四九



(448)
黑柿蘇芳染金銀山水繪箱蓋

四九

圖版五一



(480)

漆繪彈弓人物圖

五一

圖版五〇



(458)

蘇芳地金銀鼓樂繪箱蓋

五〇

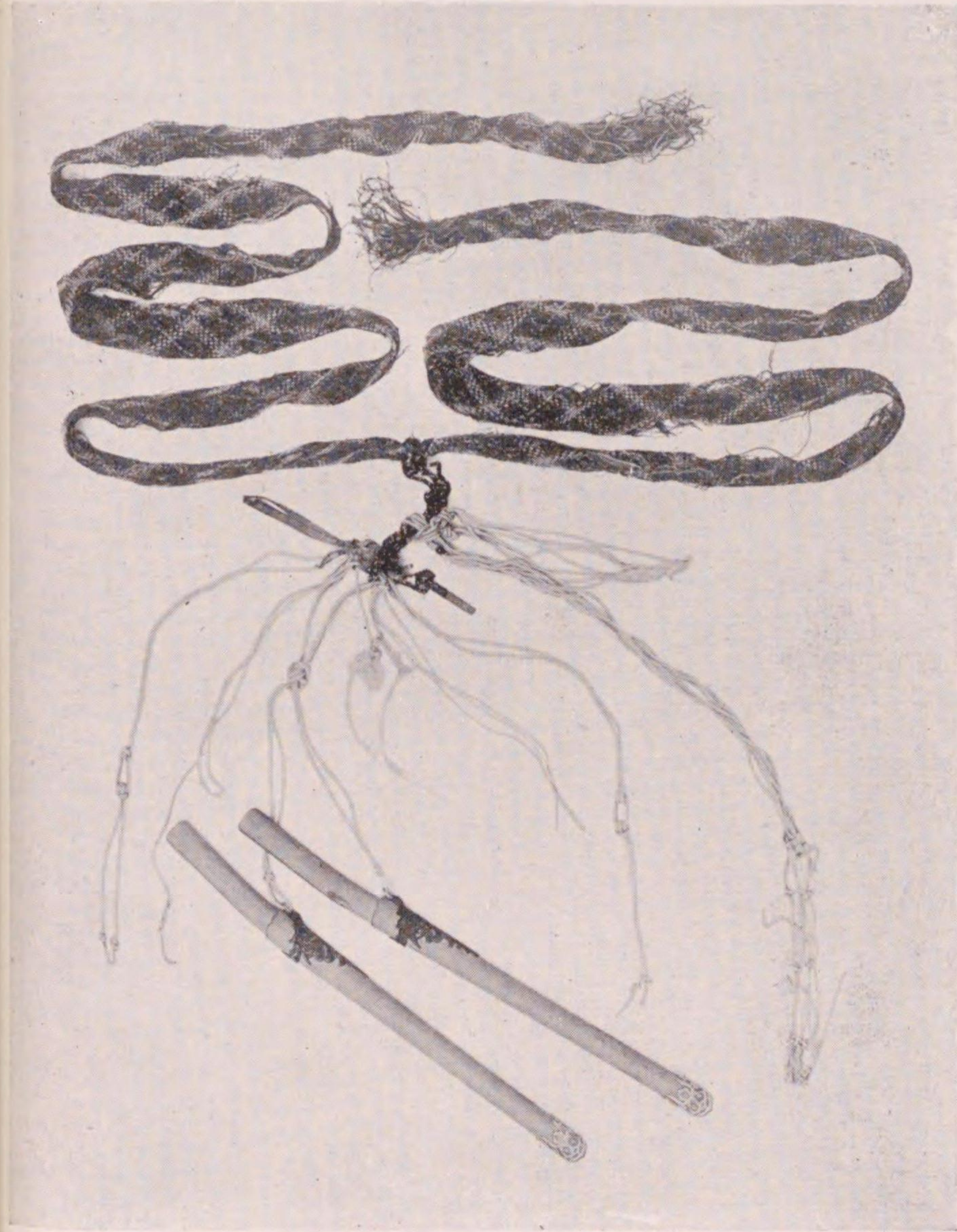
圖版五三



(607) 密陀繪盆

五三

圖版五二



(524) 雜色緞授帶

(526) 黃楊木把鞘刀子

五二

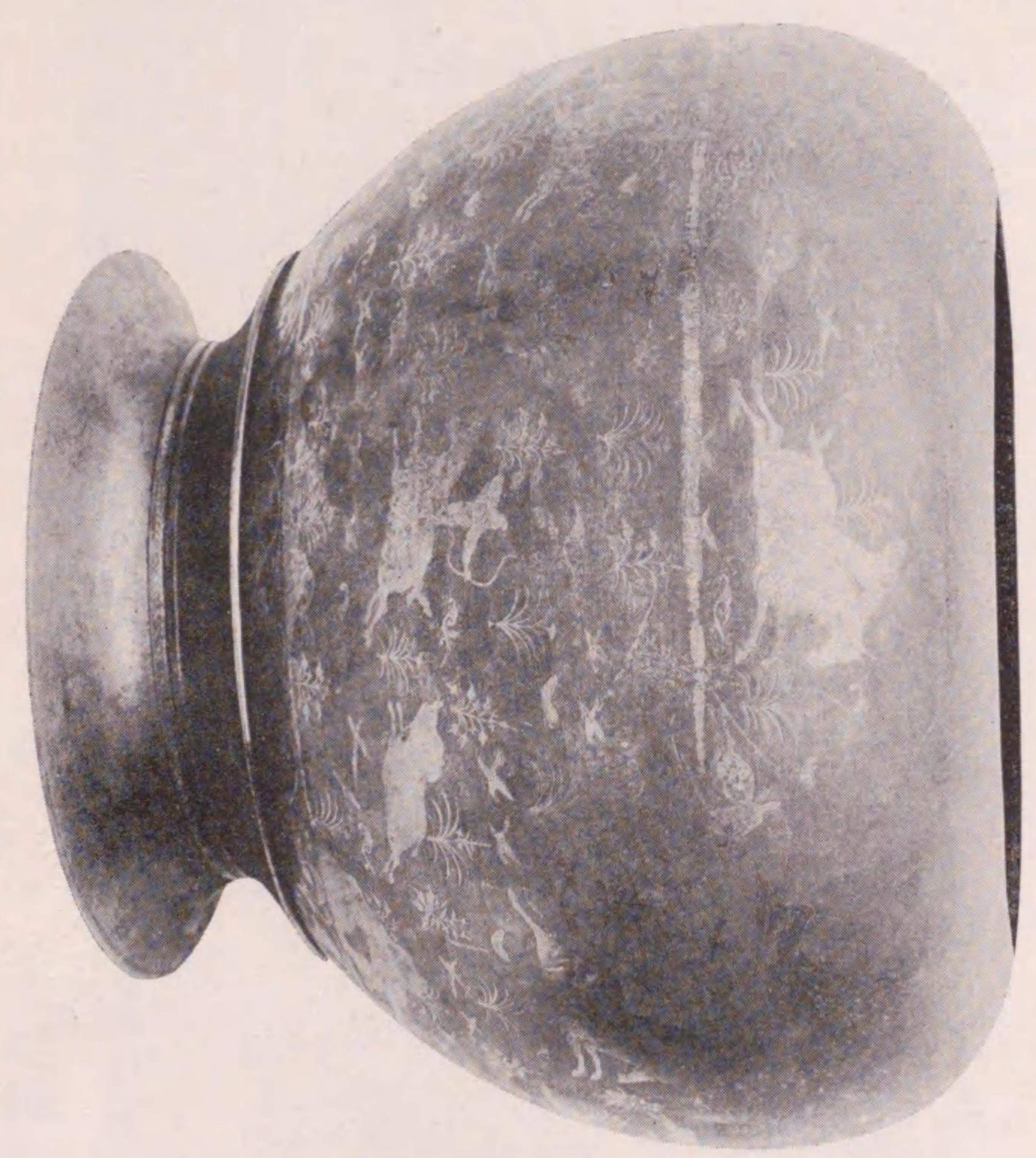
圖版五四



(633)
磁

五四
瓶

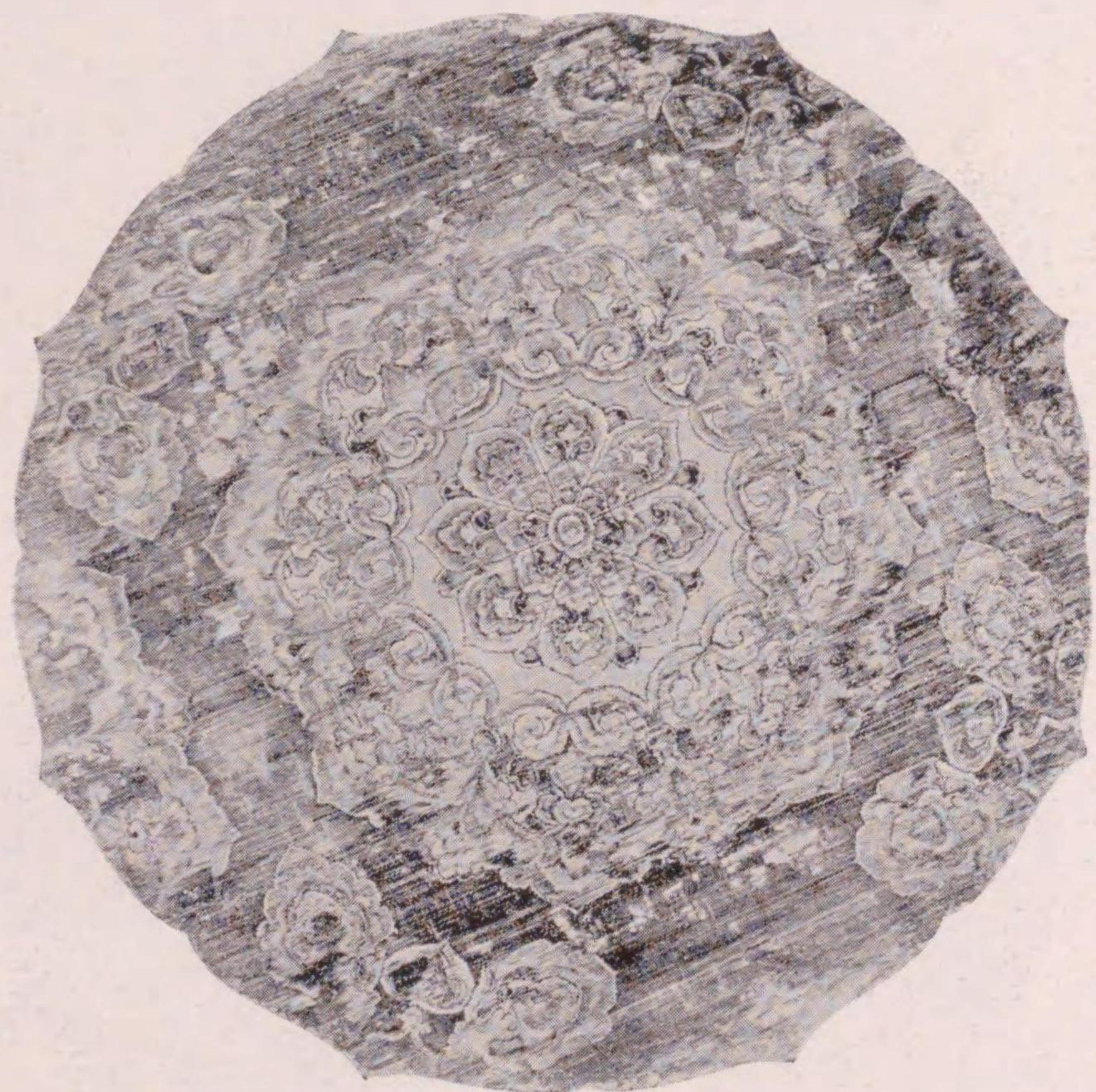
圖版五五



(640)
銀
壺

五五

圖版五七

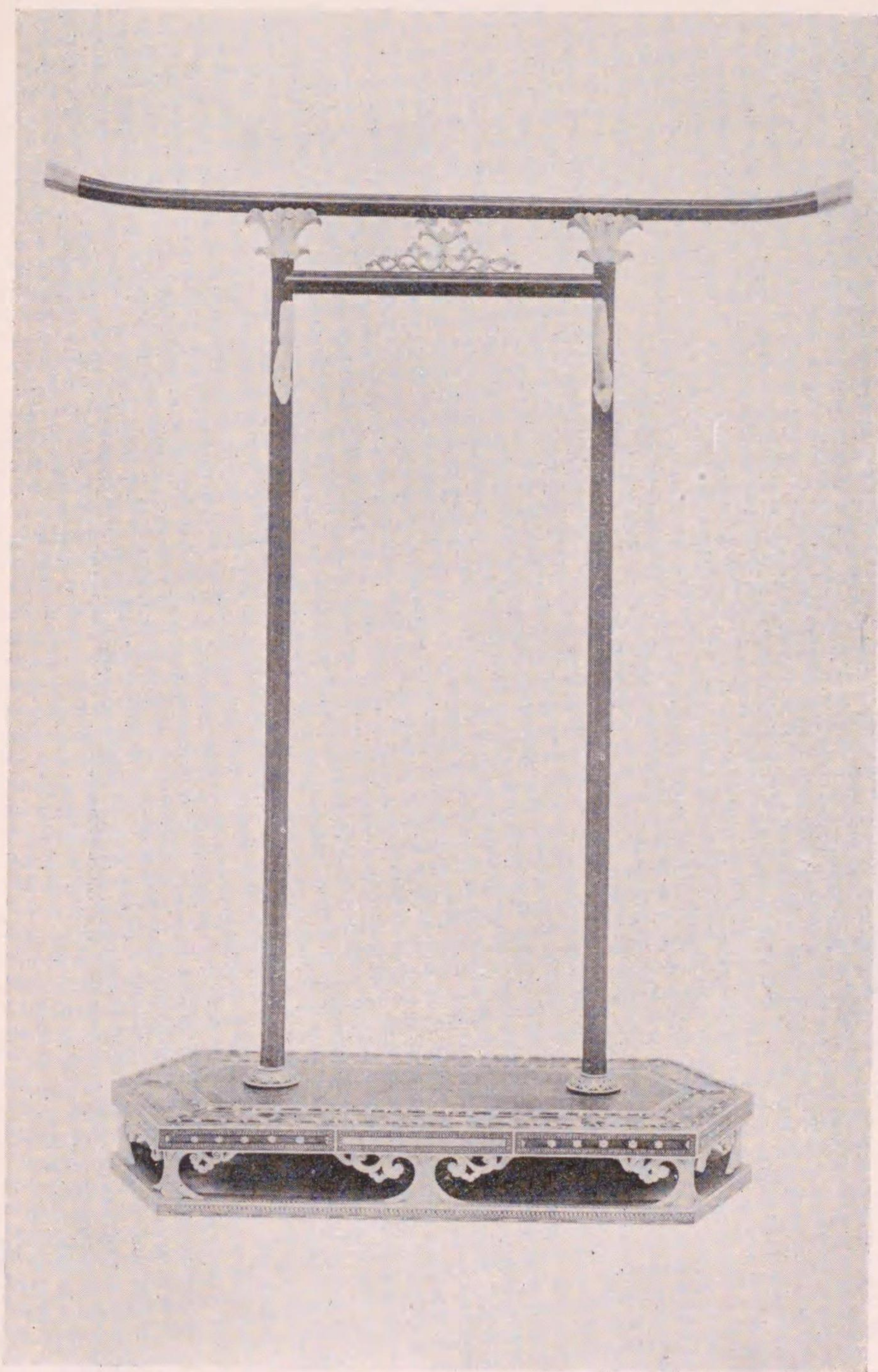


(695)

八角高麗錦鏡箱

五七

圖版五六



(675)

紫檀小架

五六

圖版五九

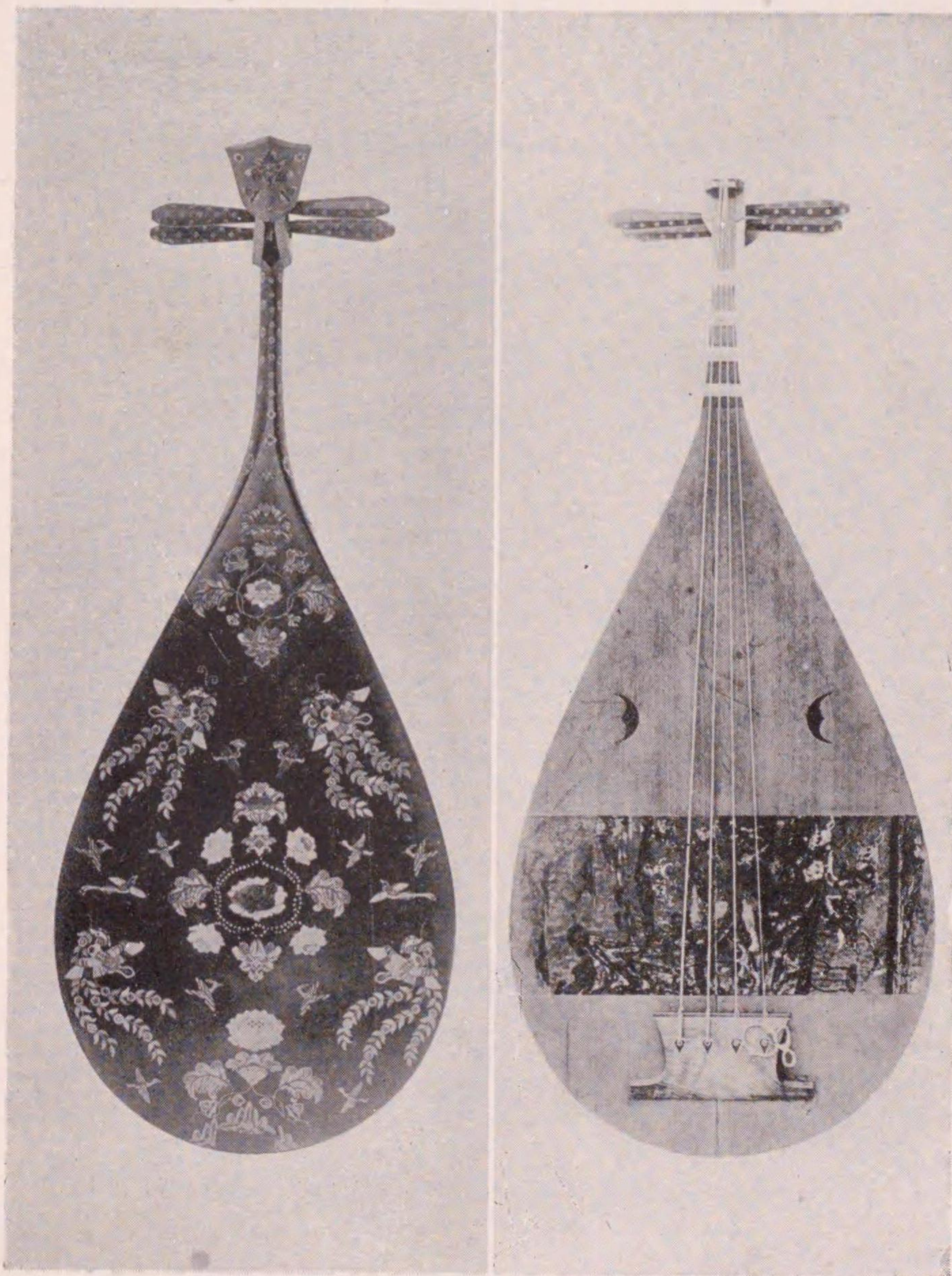


(733)

五九

磁鼓筒

圖版五八



(728)

木畫紫檀琵琶

五八

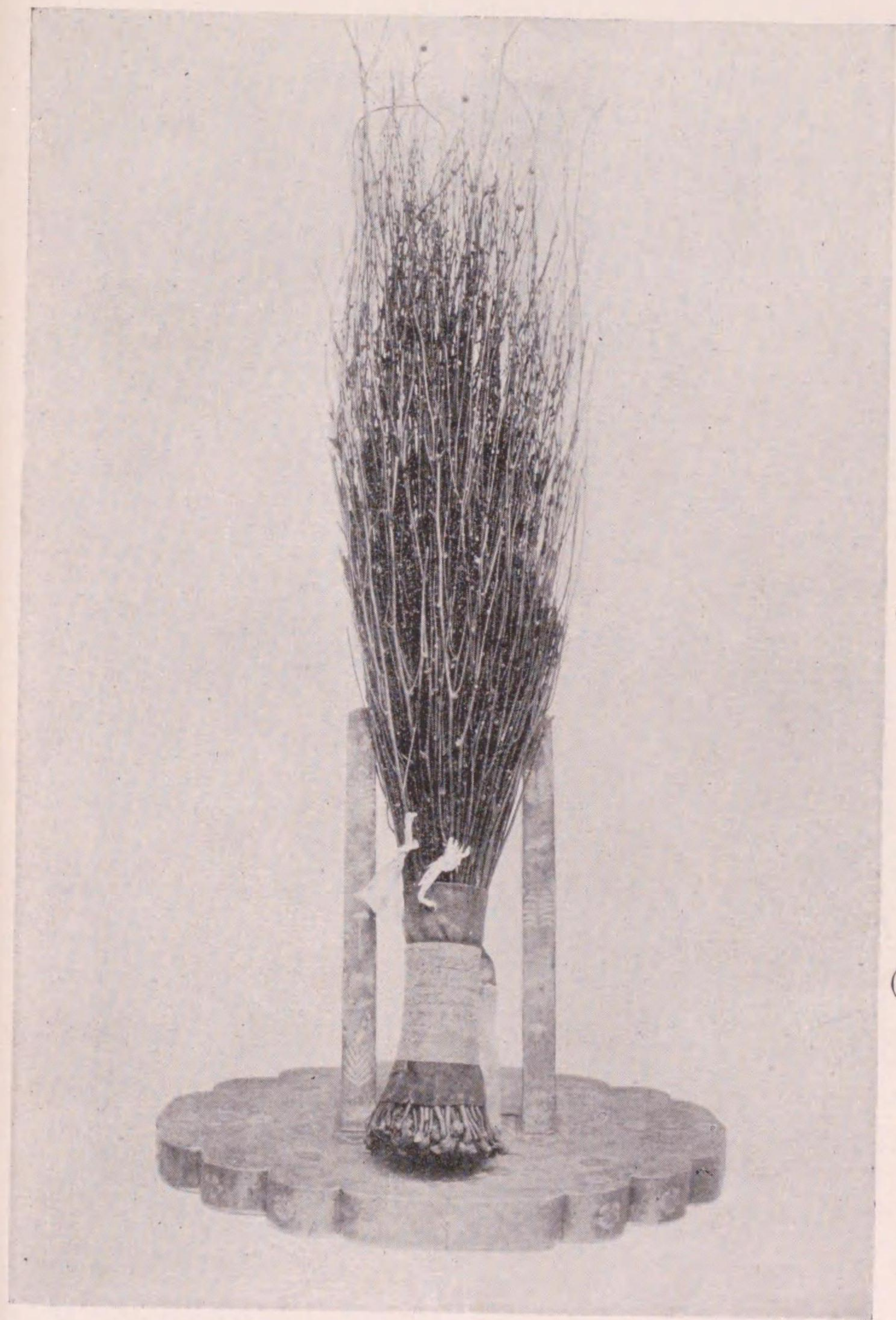
圖版六一



(779) 墨繪菩薩像

六一

圖版六〇

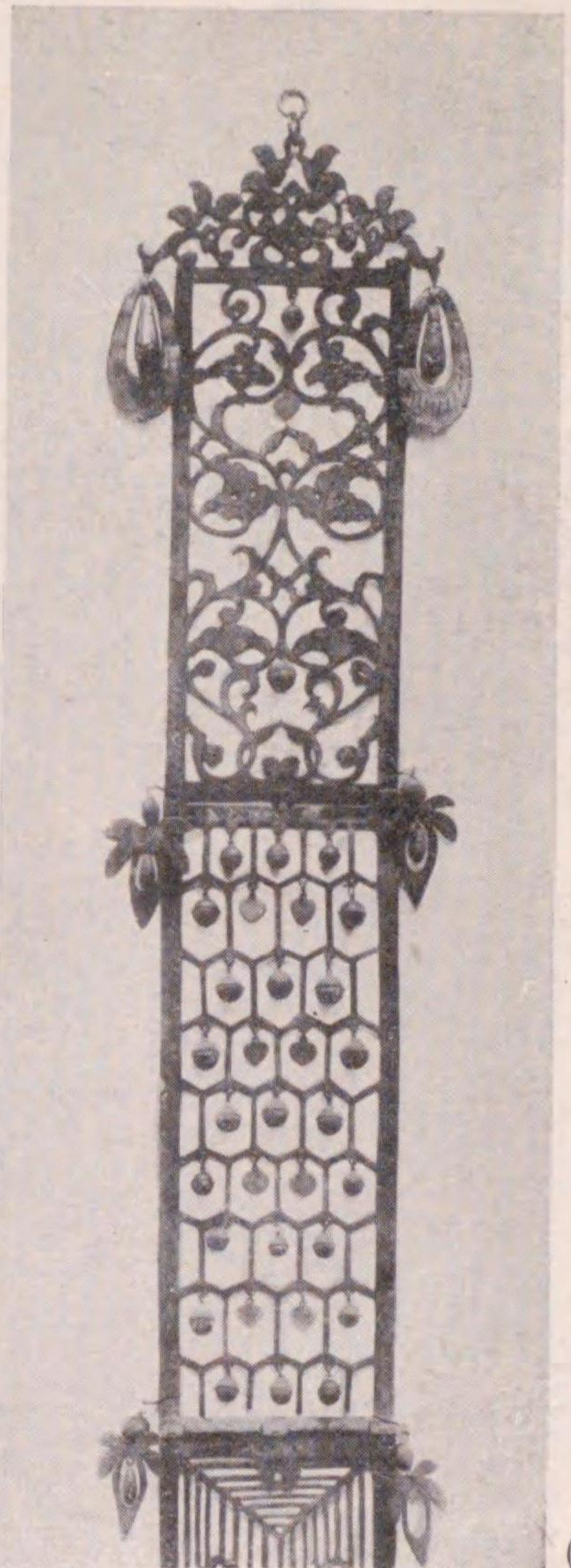


(746) 子日目利箒

(747) 粉地彩繪倚几

六〇

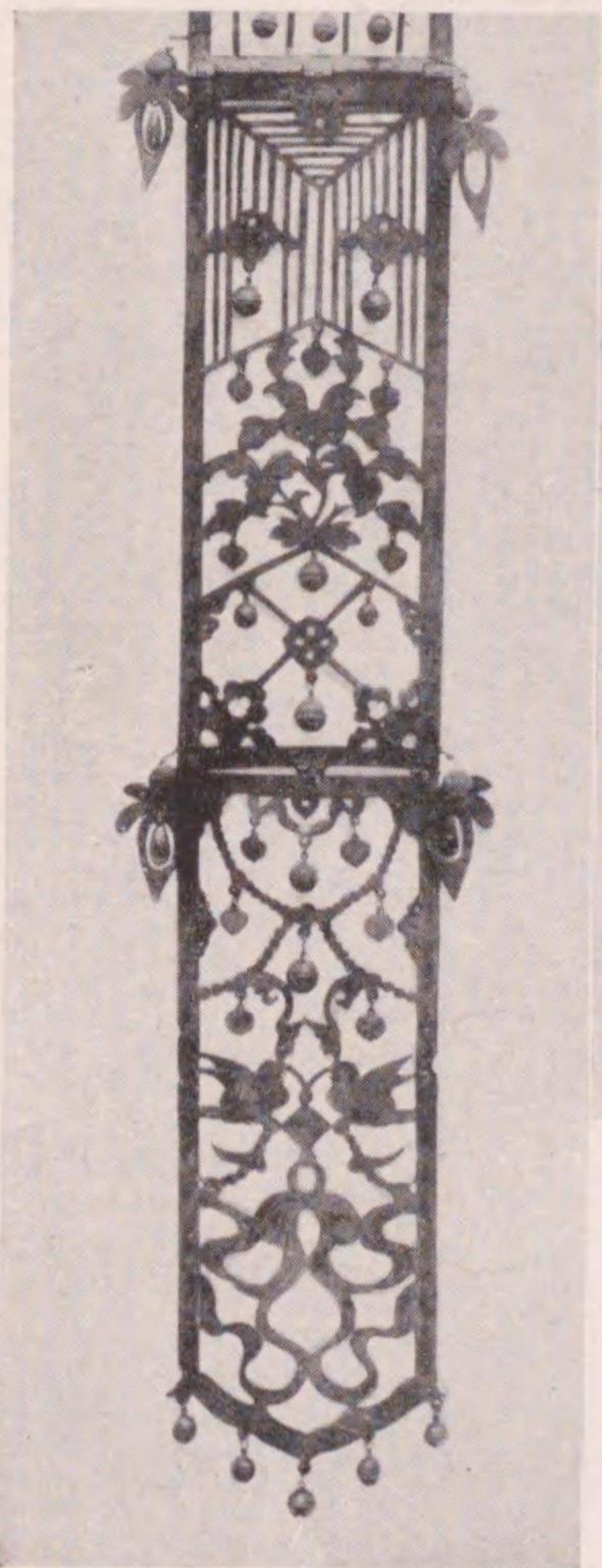
圖版六二



(786)

金
銅
幡

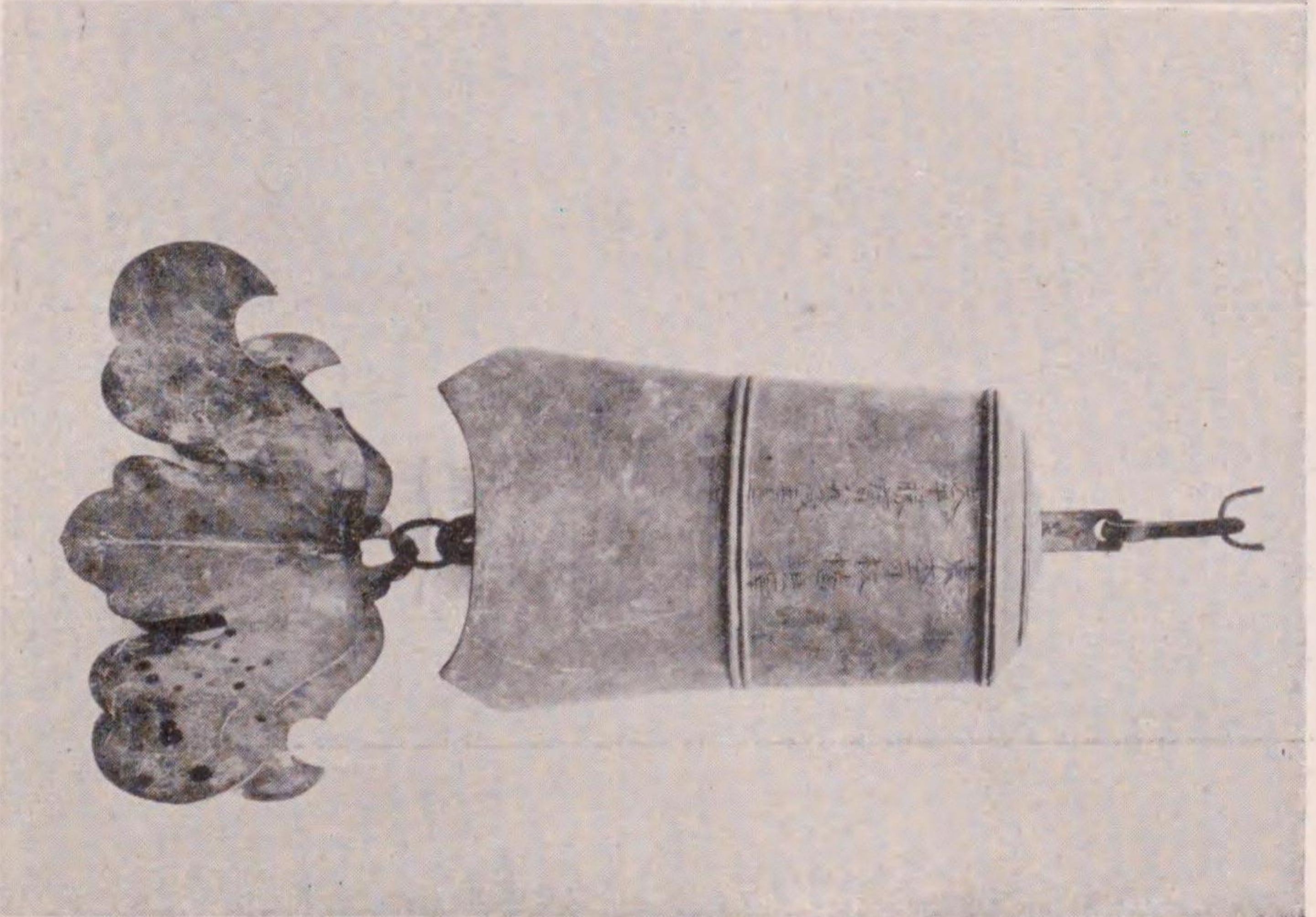
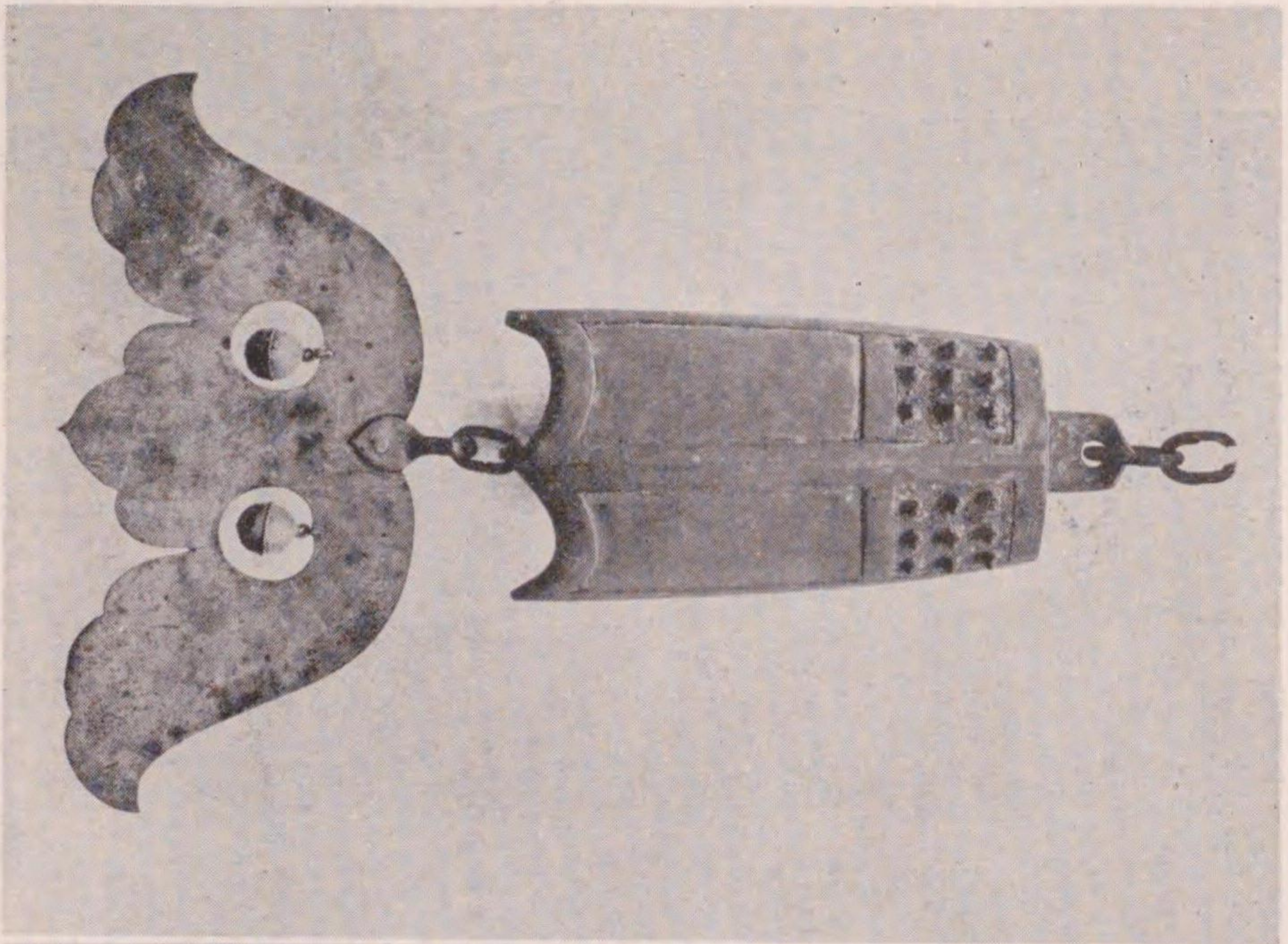
六二



圖版六三

(789)(787)

金
銅
幡
鎮
鐸



六三



(793)

花鳥文刺繡紫綾雲緞絛緣幡身

大正十四年十月廿一日
昭和十四年十月廿一日
昭和十六年十月廿一日
昭和十九年十月廿一日
昭和十九年十月廿一日

發行
再發行
再發行
再發行
再發行

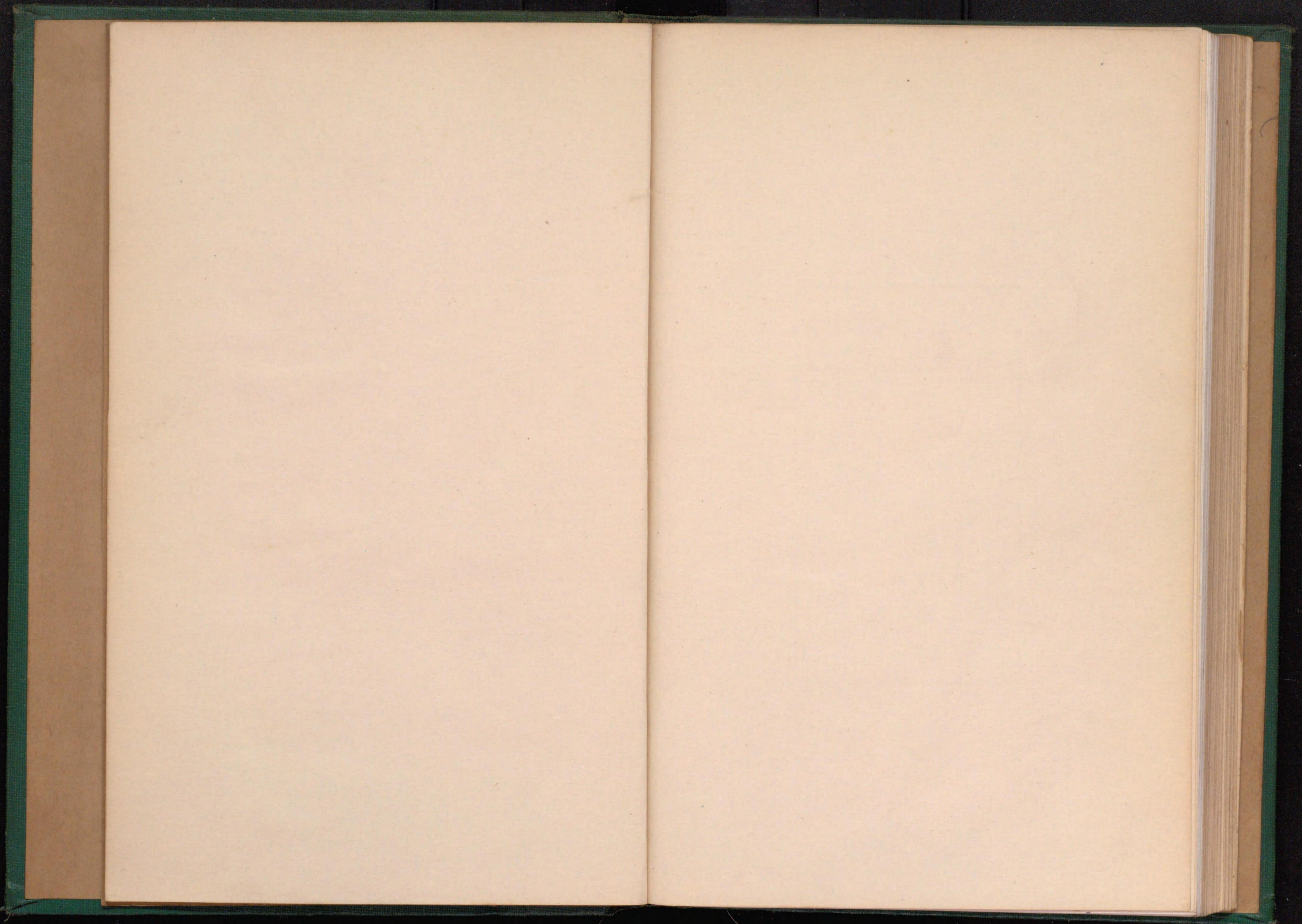
(定價金五拾錢)

不許
複製

帝室博物館

印刷者 守岡功

印刷所 東京市本所區麻橋一丁目二七ノ二
出版印刷株式會社本所分工場





547
150

